

第 3 次浜松市人権施策推進計画骨子案について（報告）

1 計画の趣旨

人権施策推進計画は、人権が尊重された社会づくりを目指して、様々な人権問題の解消に向けた取り組みの指針となるもの。人権に関する意識調査の結果を踏まえ、浜松市が「人権尊重意識が定着した社会」となるよう施策の重点的な取り組みの方向性、分野別の取り組みを示したもの。

2 人権に関する意識調査の結果について（P2－P30）

3 施策体系図について（P31）

4 計画の期間

令和 7 年度から令和 11 年度

5 策定スケジュールについて

年月日	事項等	摘要（議題等）
令和 5 年 11 月 15 日 ～12 月 10 日	人権に関する意識調査実施	・市内在住の 18 歳以上の計 3,000 人 に対して調査を実施。
令和 6 年 7 月 19 日	令和 6 年度 第 1 回人権施策推進審議会	・意識調査結果の報告について ・計画の骨子案について
8 月 20 日	市議会厚生保健委員会	・計画の骨子案について
8 月 27 日	第 2 回人権施策推進審議会	・計画の素案について
10 月上旬	第 3 回人権施策推進審議会	・計画の素案について
11 月上旬	市議会厚生保健委員会	・パブリック・コメント事前報告
11 月中旬 ～12 月中旬	パブリック・コメントの実施	
令和 7 年 1 月	第 4 回人権施策推進審議会	・パブリック・コメント結果等報告
2 月	市議会厚生保健委員会	・パブリック・コメント結果等報告
3 月	計画策定	

令和 5 年度
人権に関する意識調査報告書
《抜粋》

浜 松 市

I. 調査概要

(1) 調査目的

本市では、人権尊重の意識を高めるために、人権に関するさまざまな施策に取り組んでいます。市民の人権についての意識を把握し、より適切かつ効果的な啓発活動や施策の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として本調査を実施しました。

(2) 調査事項

- ①人権意識について

②女性の人権について

③子どもの人権について

④高齢者の人権について

⑤障がいのある人の人権について

⑥外国人の人権について

⑦同和問題について

⑧性的少数者の人権について

⑨その他の人権について

⑩浜松市の進める人権施策について

⑪人権に関する取り組みについて

⑫効果的な啓発活動について

⑬市民一人ひとりが心がけることについて

⑭人権について

(3) 調査実施概要

①調査地域	浜松市全域
②調査対象	浜松市内在住の満18歳以上の者
③抽出方法	住民基本台帳から該当者を無作為抽出
④調査方法	郵送配布、郵送回収（督促状の発送なし）、インターネット回答
⑤調査期間	令和5年11月15日～12月10日
⑥実施機関	浜松市 人権啓発センター

(4) 回収状況

発送数	回収数	有効回答数	有効回答率
3,000 件	1,005 件 (260 件)	1,002 件 (260 件)	33.4%

()内はインターネット回答の件数

(5) 報告書内のデータ記述について

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、比率の合計が100%にならないことがあります。

②各質問の回答は有効回答数を基数とした百分率（%）で示してあります。

③質問が複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超えます。

④図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所があります。

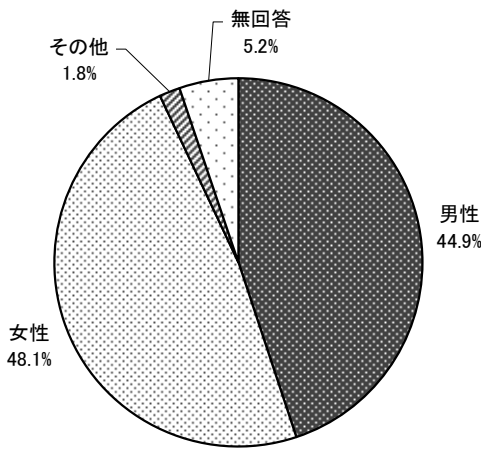
⑤クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しません。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがあります。

⑥実施期間の関係上、行政区再編前の7区で集計・表記しております。

(6) 回答者の属性

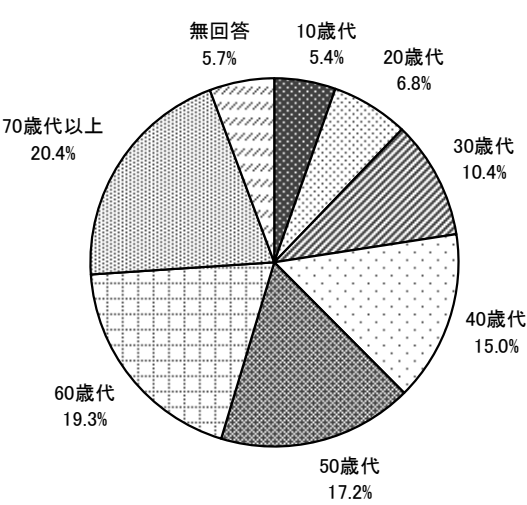
①性別

(N = 1002)



②年齢

(N = 1002)



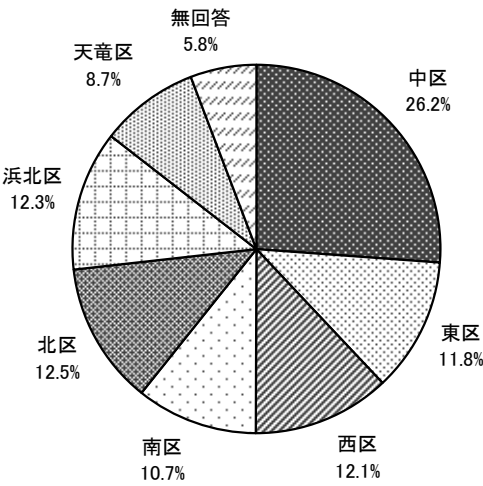
③性別・年齢別構成

(単位: %)

		回答数 (人)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答
全 体		1002	5.4	6.8	10.4	15.0	17.2	19.3	20.4	5.7
性別	男性	450	7.1	7.8	10.9	15.1	18.2	19.6	21.3	0.0
	女性	482	3.7	6.4	11.2	16.8	18.0	21.6	22.0	0.2
	その他	18	22.2	11.1	5.6	5.6	16.7	5.6	11.1	22.2

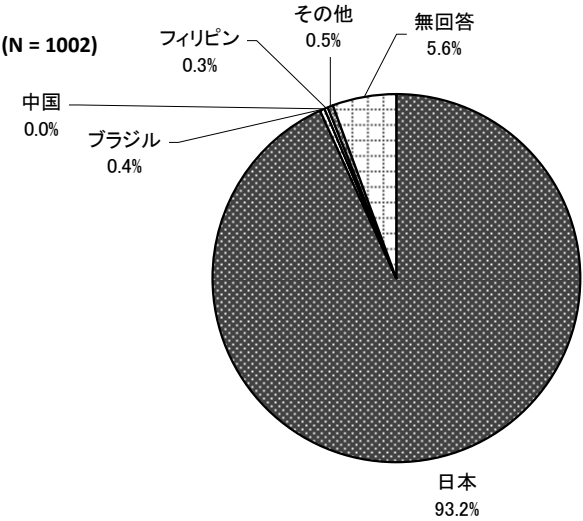
④居住区

(N = 1002)



⑤国籍

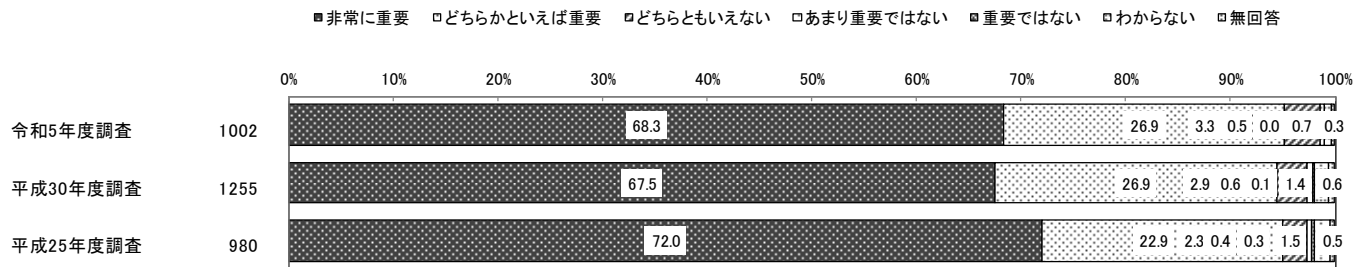
(N = 1002)



Ⅱ．調査結果

（１）人権意識について

問１ あなたは人権を尊重することは重要だと思われますか。
（当てはまる番号に１つだけ、○をつけてください。）



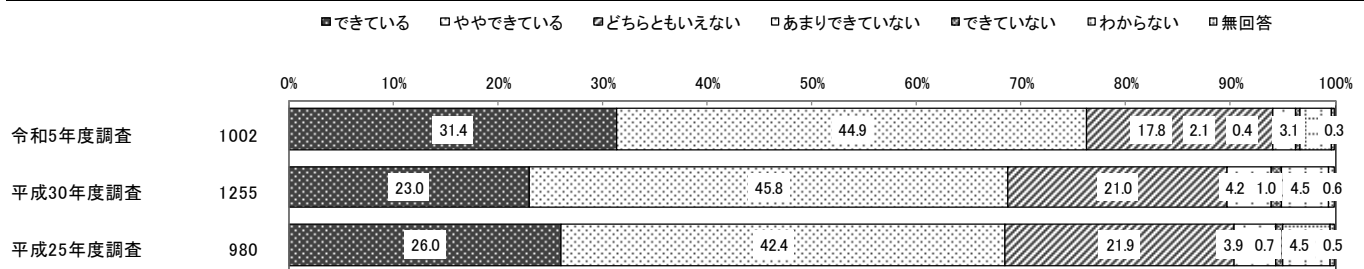
人権の重要度について、「非常に重要」が68.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば重要」が26.9%、「どちらともいえない」が3.3%となっています。

「非常に重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は95.2%と高く、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた『重要ではない』は0.5%と低くなっています。

過去の調査と比較すると、『重要』（95.2%）は、平成30年度調査（94.4%）、平成25年度調査（94.9%）とほぼ横ばいとなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

問２ あなたは、自分以外の人の人権を尊重することができていると思われますか。
（当てはまる番号に１つだけ、○をつけてください。）



自分以外の人の人権を尊重しているかについて「ややできている」が44.9%と最も高く、次いで「できている」が31.4%、「どちらともいえない」が17.8%となっています。

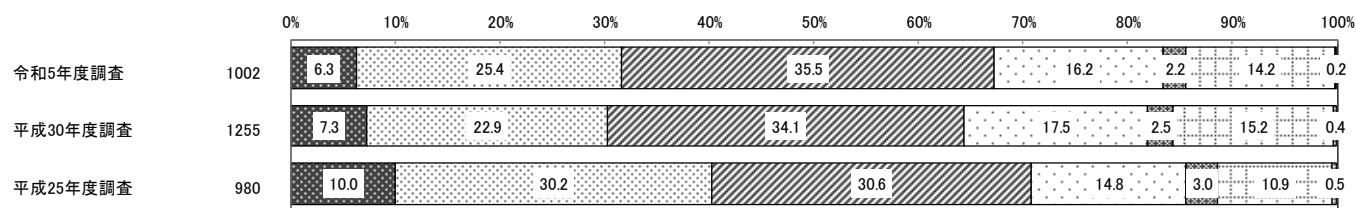
「できている」と「ややできている」を合わせた『できている』は76.3%となり、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた『できていない』の2.5%を73.8ポイント上回りました。

過去の調査と比較すると、『できている』（76.3%）は、平成30年度調査（68.8%）、平成25年度調査（68.4%）より7ポイント以上高くなっています。

問3 浜松市では、「人権尊重の意識」が生活の中に定着していると思われますか。

(当てはまる番号に1つだけ、○をつけてください。)

■思う □どちらかといえば思う □どちらともいえない □あまり思わない □まったく思わない □わからない □無回答

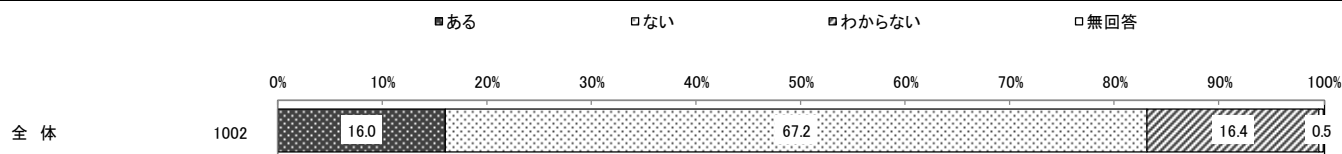


人権尊重の意識が生活の中に定着しているかについて、「どちらともいえない」が35.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」が25.4%、「あまり思わない」が16.2%となっています。

「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『思う』は31.7%となり、「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた『思わない』の18.4%を13.3ポイント上回りました。

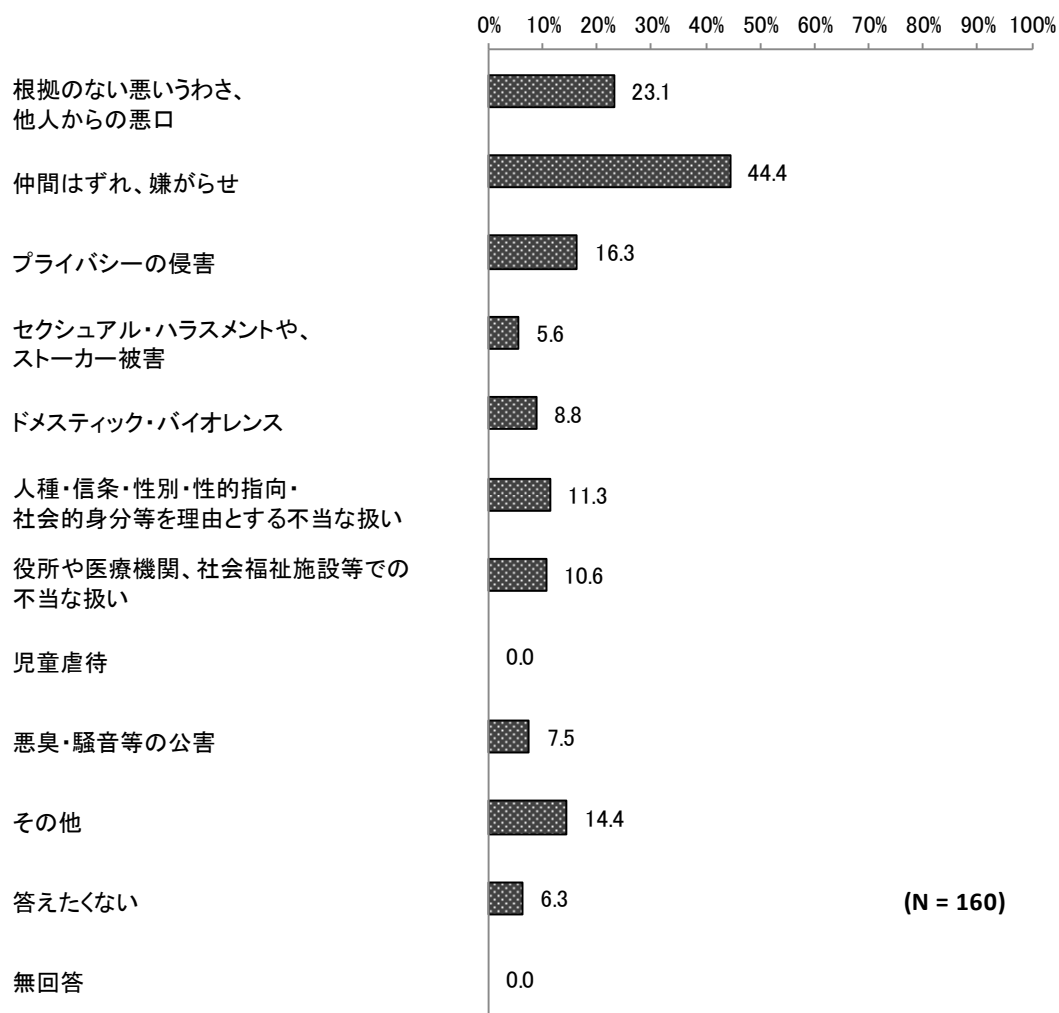
過去の調査と比較すると、『思う』（31.7%）は、平成25年度調査（40.2%）より8.5ポイント低くなっているものの、平成30年度調査（30.2%）からは1.5ポイント高くなりました。

問4 あなたは、この5年ほどの間に、自分の人権が侵害されたと思われたことはありますか。
(当てはまる番号に1つだけ、○をつけてください。)



自分の人権が侵害されたと思った事例の有無について、「ない」が67.2%と最も高く、次いで「わからない」が16.4%、「ある」が16.0%となっています。

問5 問4で「1 ある」と回答した方にお聞きします。それは、どのような内容ですか。
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)

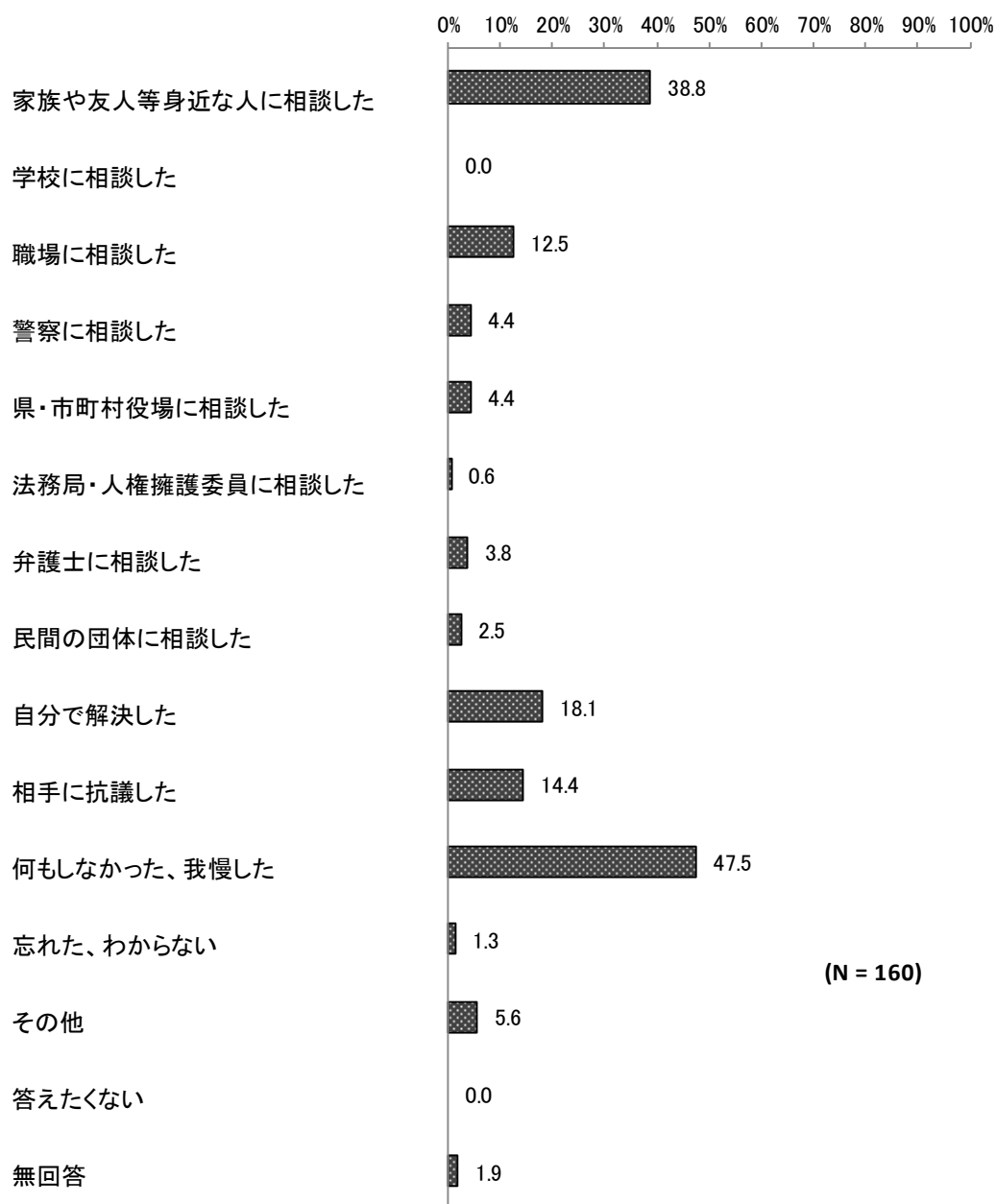


自分の人権が侵害されたと思った事例の内容について、「仲間はずれ、嫌がらせ」が44.4%と最も高く、次いで「根拠のない悪いうわさ、他人からの悪口」が23.1%、「プライバシーの侵害」が16.3%となっています。

問6 問4で「1 ある」と回答した方にお聞きします。

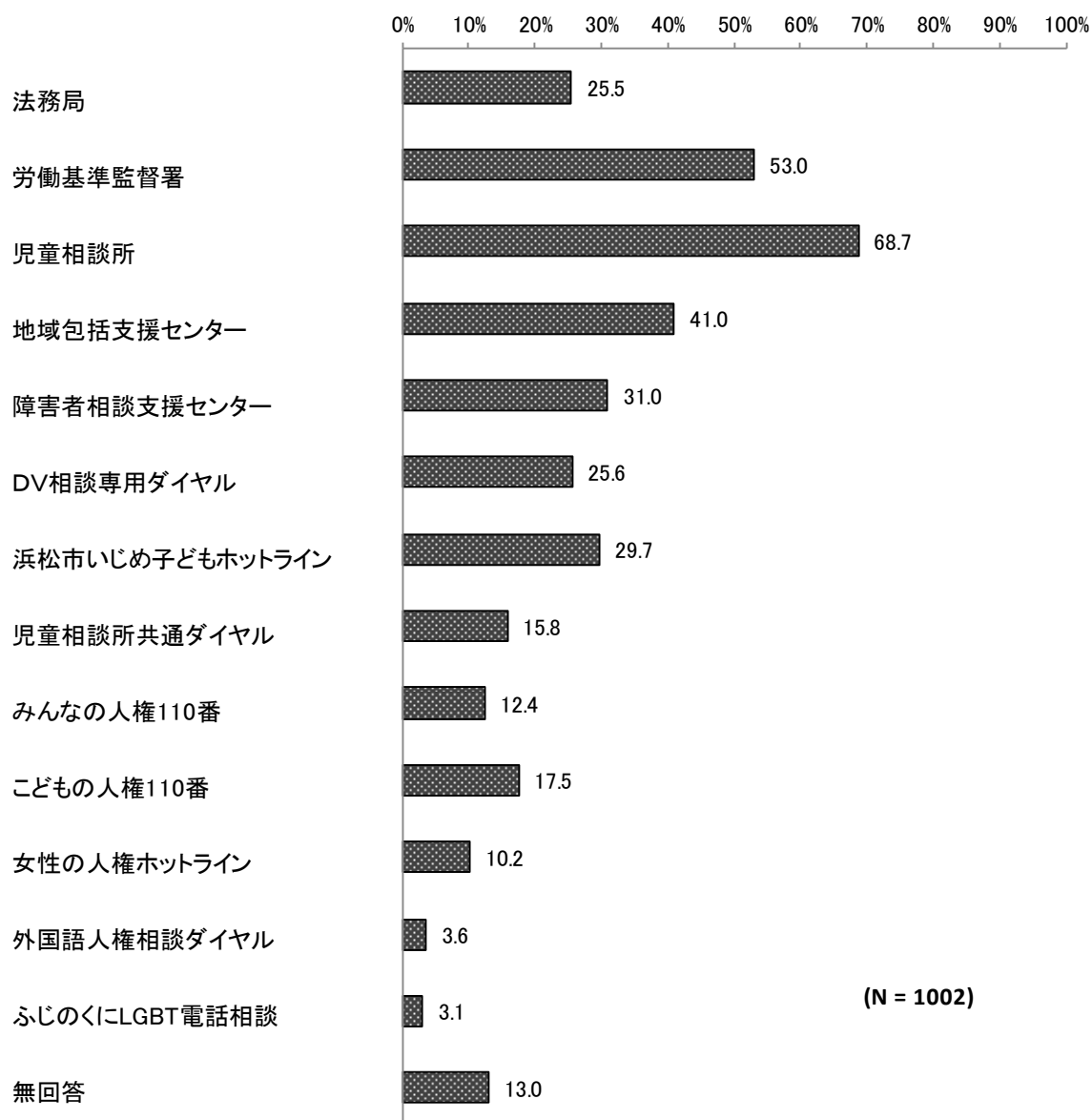
あなたは自分の人権が侵害されたと思われたときどうしましたか。

(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)



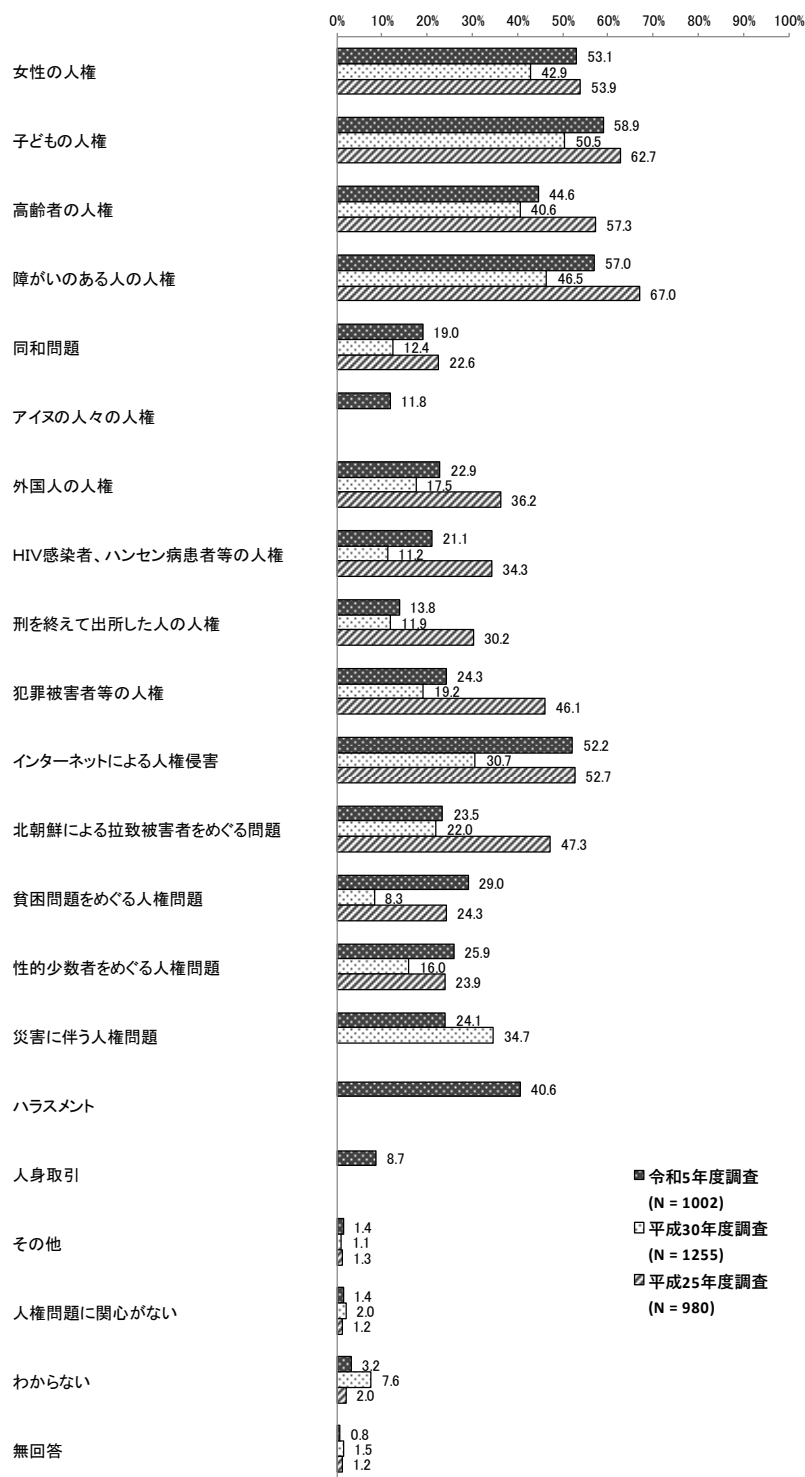
自分の人権が侵害されたと思った時にどうしたかについて、「何もしなかった、我慢した」が47.5%と最も高く、次いで「家族や友人等身近な人に相談した」が38.8%、「自分で解決した」が18.1%となっています。

問7 人権に関する相談窓口として、次のものがあります。
あなたが知っている相談窓口の番号すべてに、○をつけてください。



相談窓口の認知度について、「児童相談所」が68.7%と最も高く、次いで「労働基準監督署」が53.0%、「地域包括支援センター」が41.0%となっています。

問 8 次の人権問題のうち、あなたが関心のある人権問題はどれですか。
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)



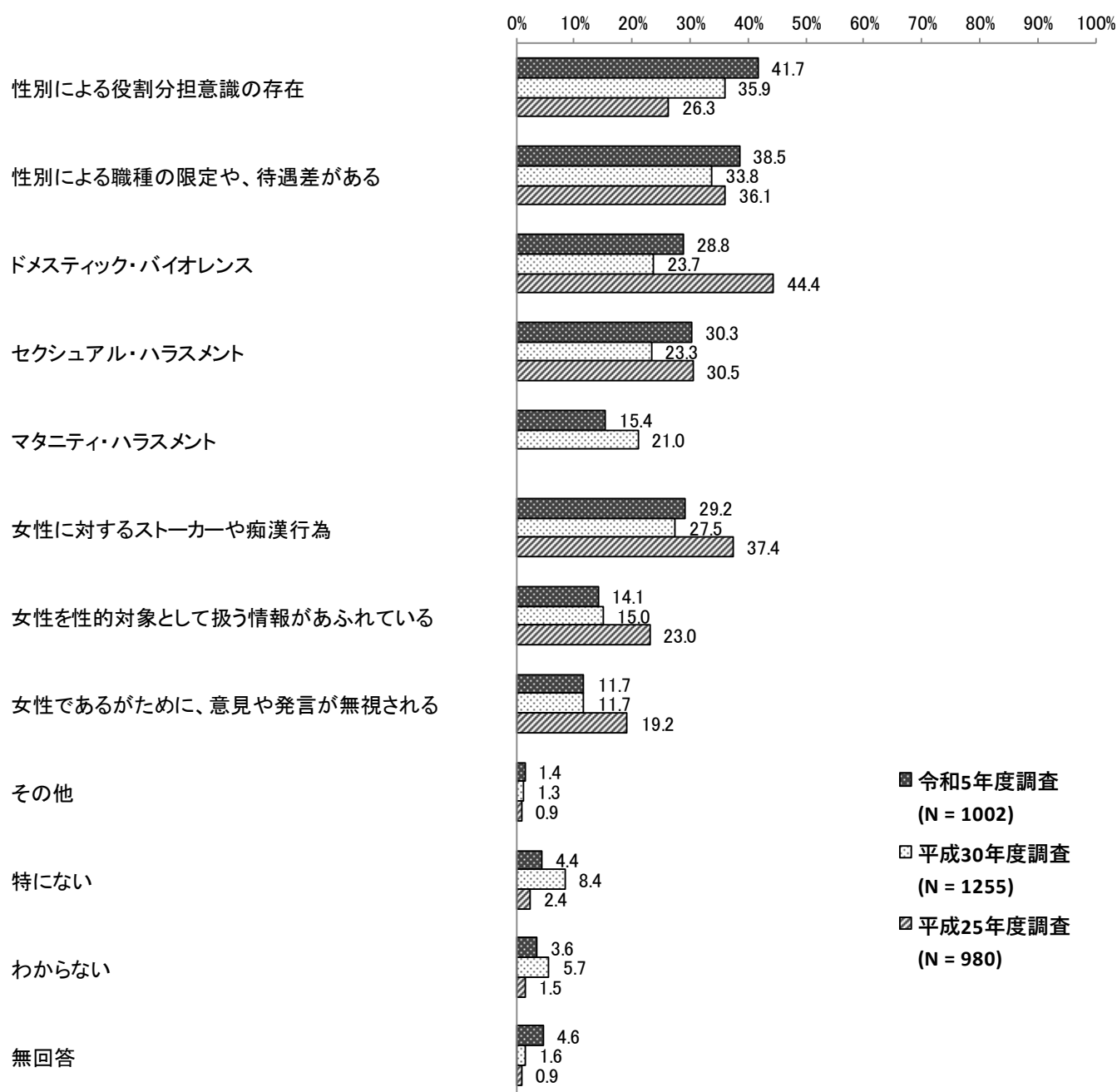
関心のある人権について、「子どもの人権」が58.9%と最も高く、次いで「障がいのある人の人権」が57.0%、「女性の人権」が53.1%となっています。

過去の調査と比較すると、「インターネットによる人権侵害」は平成30年度調査（30.7%）より21.5ポイント高くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「災害に伴う人権問題」は平成30年度調査から、「アイヌの人々の人権」「ハラスメント」「人身取引」は令和5年度調査のみの選択肢です。

(2) 女性の人権について

問9 次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



女性の人権について特に問題だと思うことは、「性別による役割分担意識の存在」が41.7%と最も高く、次いで「性別による職種の限定や、待遇差がある」が38.5%、「セクシュアル・ハラスメント」が30.3%となっています。

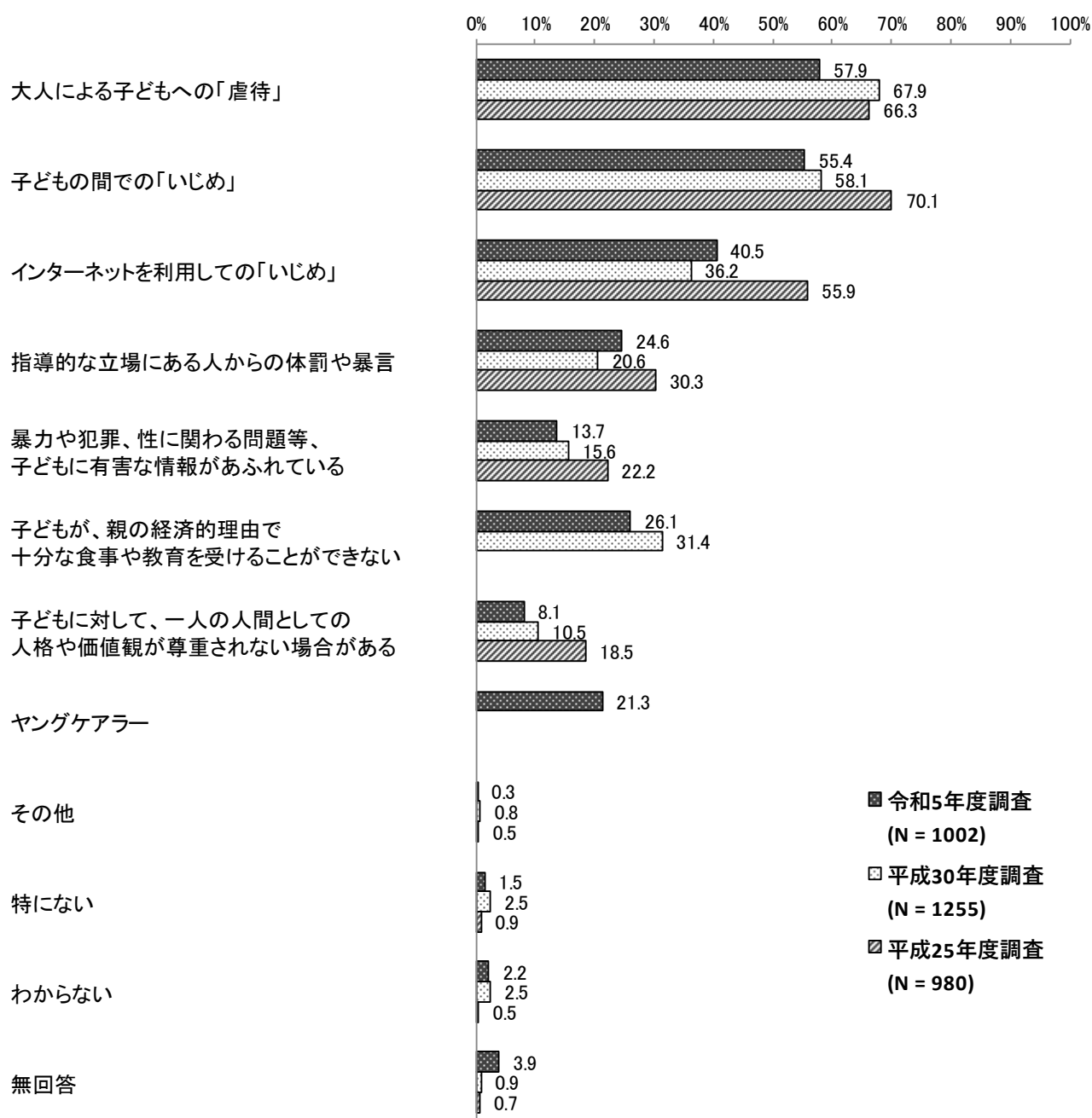
過去の調査と比較すると、「性別による役割分担意識の存在」（41.7%）は平成30年度調査よりも5.8ポイント高く、年々高くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「マタニティ・ハラスメント」は平成30年度調査からの選択肢です。

(3) 子どもの人権について

問 10 次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。

(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



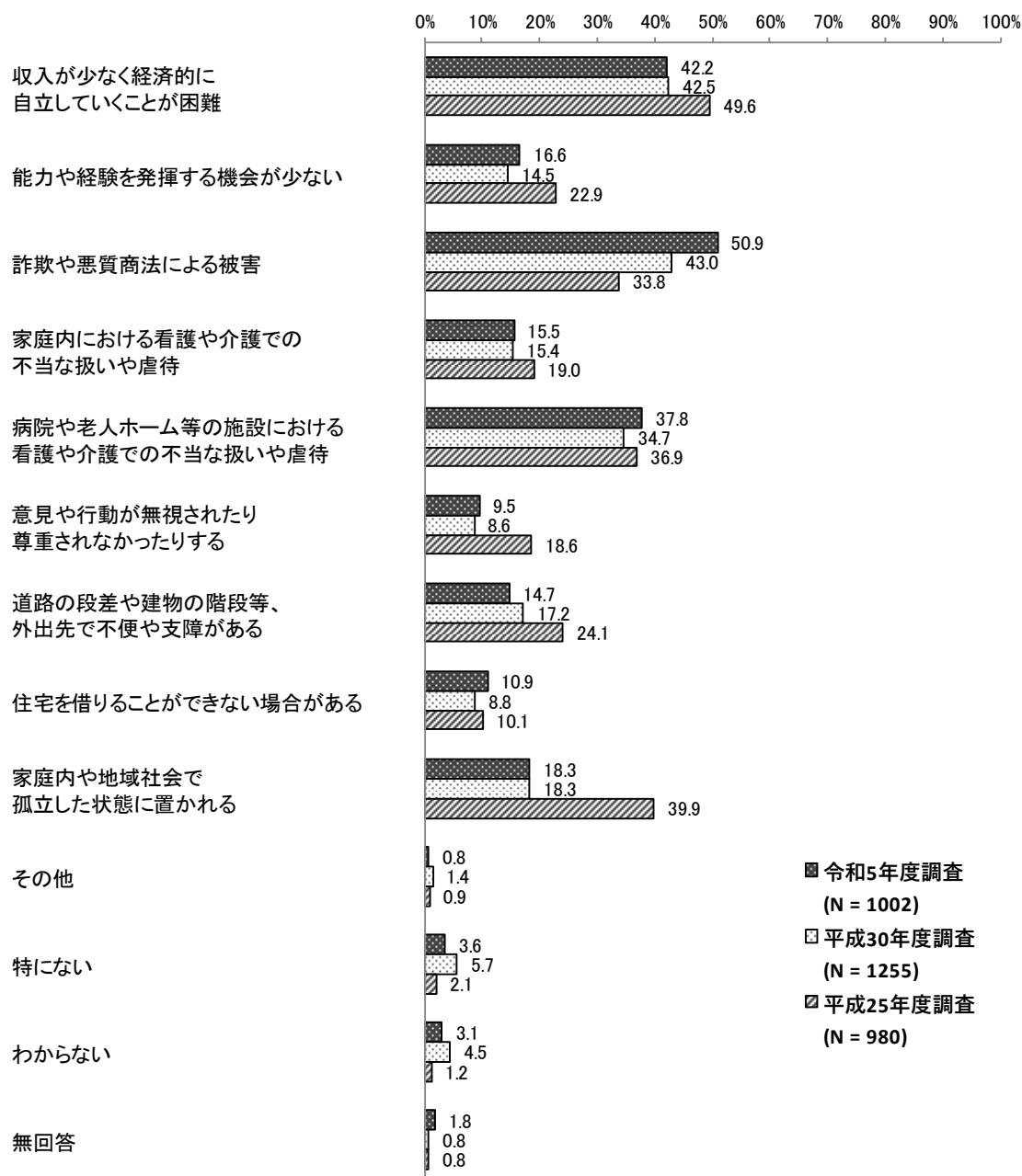
子どもの人権について特に問題だと思うことは、「大人による子どもへの『虐待』」が57.9%と最も高く、次いで「子どもの間での『いじめ』」が55.4%、「インターネットを利用した『いじめ』」が40.5%となっています。

過去の調査と比較すると、「大人による子どもへの『虐待』」(57.9%)は平成30年度調査(67.9%)よりも10.0ポイント低くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「子どもが、親の経済的理由で十分な食事や教育を受けることができない」は平成30年度調査から、「ヤングケアラー」は令和5年度調査のみの選択肢です。

(4) 高齢者の人権について

問 11 次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



高齢者の人権について特に問題だと思うことは、「詐欺や悪質商法による被害」が50.9%と最も高く、次いで「収入が少なく経済的に自立していくことが困難」が42.2%、「病院や老人ホーム等の施設における看護や介護での不当な扱いや虐待」が37.8%となっています。

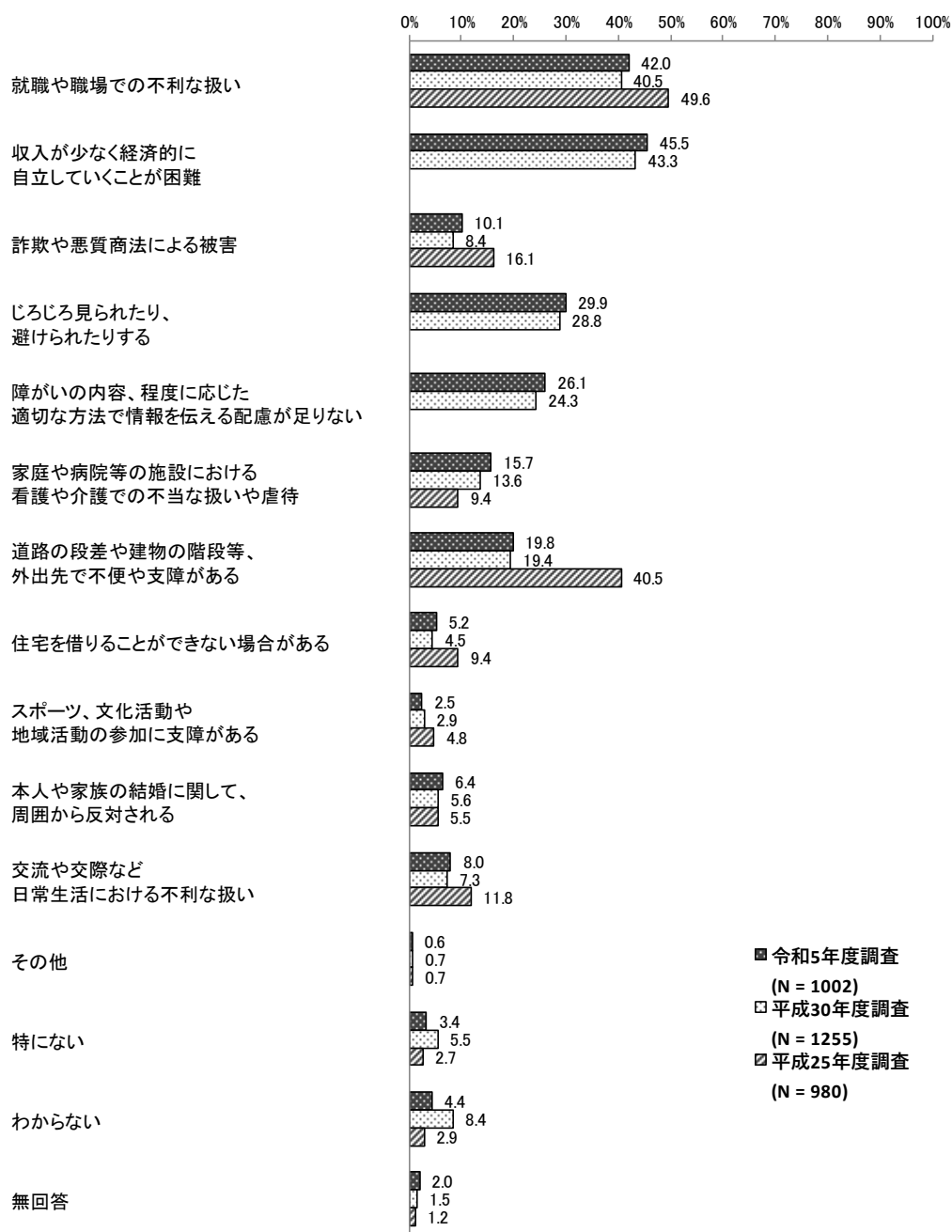
過去の調査と比較すると、「詐欺や悪質商法による被害」（50.9%）は平成30年度調査（43.0%）より7.9ポイント高く、年々高くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

(5) 障がいのある人の人権について

問 12 次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。

(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



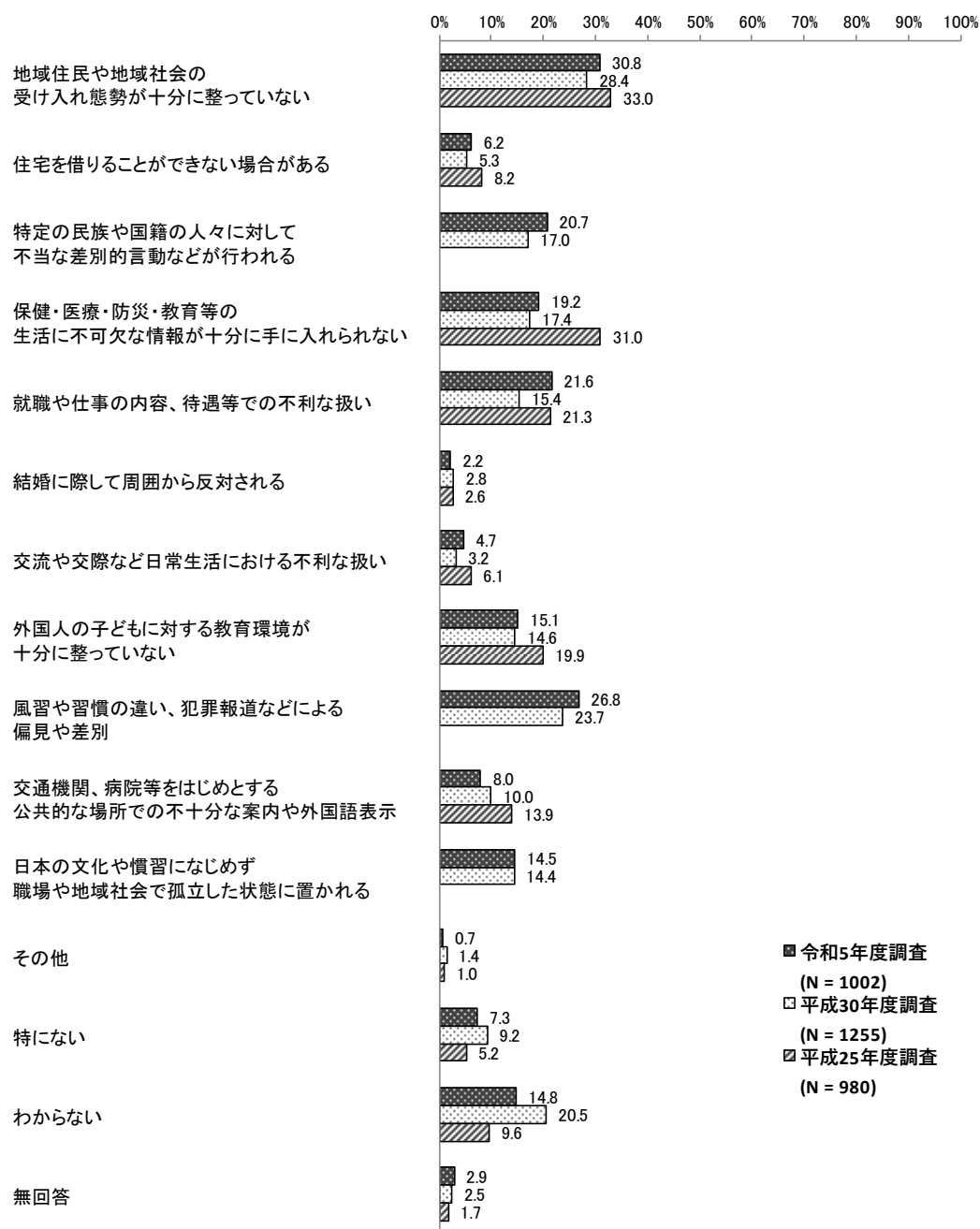
障がいのある人の人権について特に問題だと思うことは、「収入が少なく経済的に自立していくことが困難」が45.5%と最も高く、次いで「就職や職場での不利な扱い」が42.0%、「じろじろ見られたり、避けられたりする」が29.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな差はみられませんでした。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「収入が少なく経済的に自立していくことが困難」「じろじろ見られたり、避けられたりする」「障がいの内容、程度に応じた適切な方法で情報を伝える配慮が足りない」は平成30年度調査からの選択肢です。

(6) 外国人の人権について

問 13 次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



外国人の人権について特に問題だと思うことは、「地域住民や地域社会の受け入れ態勢が十分に整っていない」が30.8%と最も高く、次いで「風習や習慣の違い、犯罪報道などによる偏見や差別」が26.8%、「就職や仕事の内容、待遇等での不利な扱い」が21.6%となっています。

過去の調査と比較すると、「就職や仕事の内容、待遇等での不利な扱い」（21.6%）は平成30年度調査（15.4%）より6.2ポイント高くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動などが行われる」「風習や習慣の違い、犯罪報道などによる偏見や差別」「日本の文化や慣習になじめず職場や地域社会で孤立した状態に置かれる」は平成30年度調査からの選択肢です。

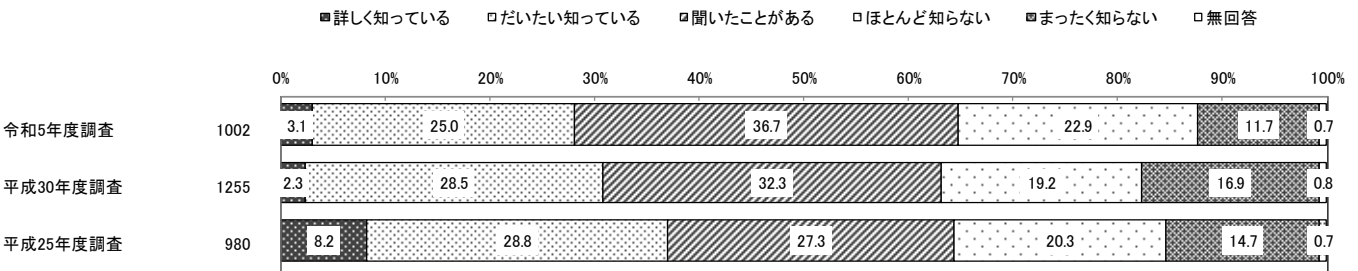
(7) 同和問題について

問 14 あなたは部落差別（同和問題）をご存知ですか。

(当てはまる番号に1つだけ、○をつけてください。)

～部落差別（同和問題）とは～

同和問題とは、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分差別により、国民の一部の人々が長い年月の間、経済的・社会的・文化的に低い状態に置かれることを強いられ、今なお、日常生活の中で様々な差別を受けている日本固有の人権問題です。



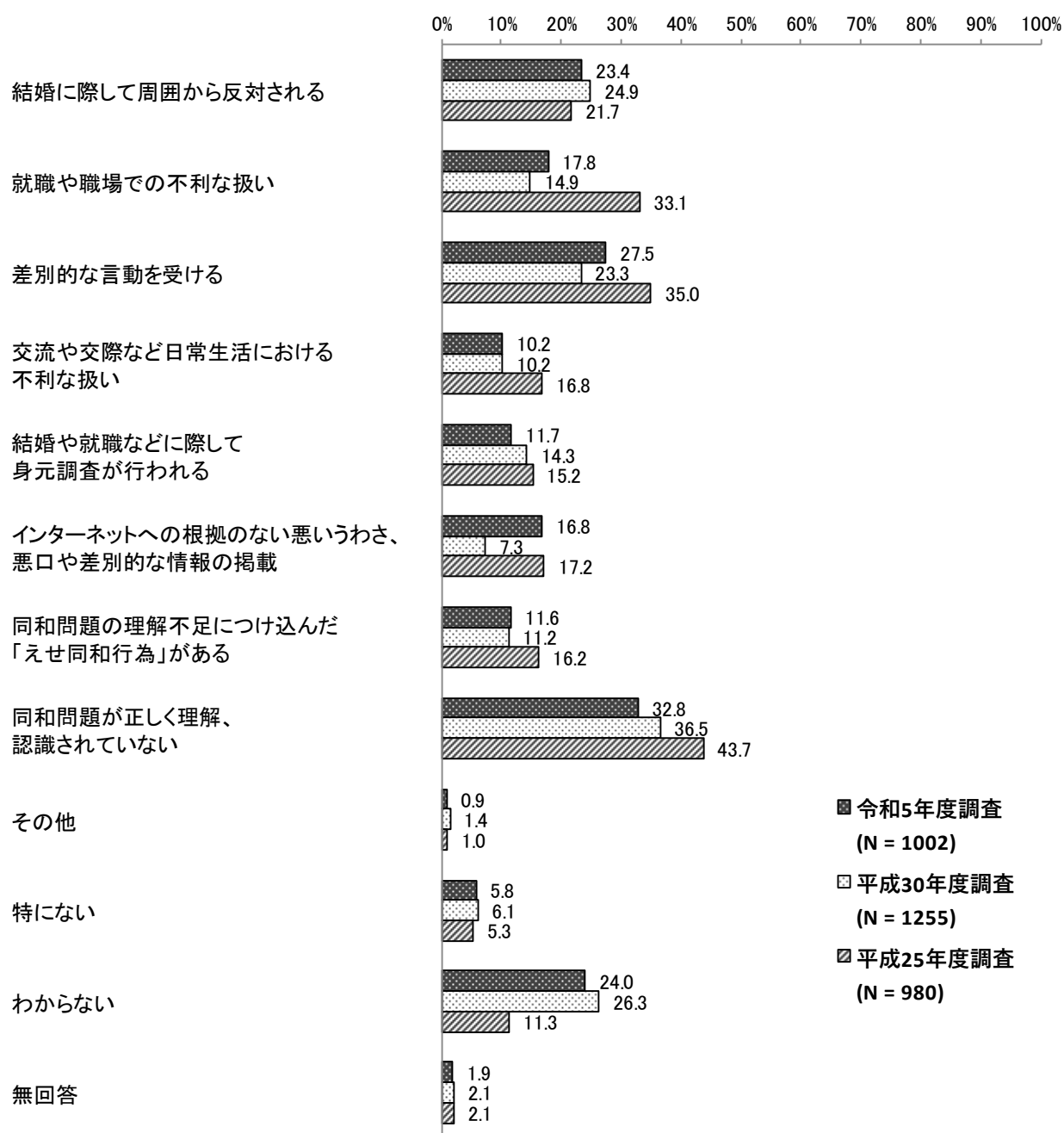
同和問題について、「聞いたことがある」が36.7%と最も高く、次いで「だいたい知っている」が25.0%、「ほとんど知らない」が22.9%となっています。

「詳しく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は28.1%となりました。「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた『知らない』は34.6%となり、『知らない』が『知っている』を6.5ポイント上回りました。

過去の調査と比較すると、「まったく知らない」（11.7%）は平成30年度調査（16.9%）より5.2ポイント低くなりました。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

問 15 同和問題に関することで、次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



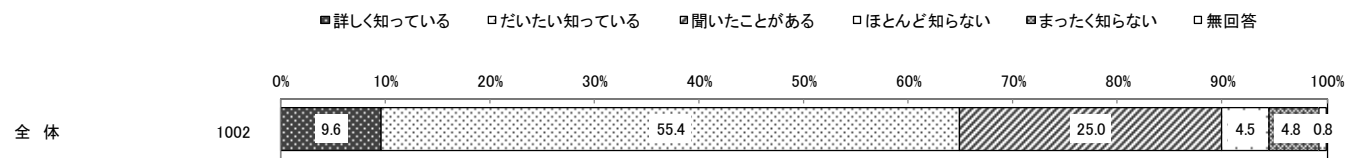
同和問題について特に問題だと思うことは、「同和問題が正しく理解、認識されていない」が32.8%と最も高く、次いで「差別的な言動を受ける」が27.5%、「わからない」が24.0%となっています。

過去の調査と比較すると、「インターネットへの根拠のない悪いうわさ、悪口や差別的な情報の掲載」(16.8%)は平成30年度調査(7.3%)から9.5ポイント高くなりました。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

(8) 性的少数者の人権について

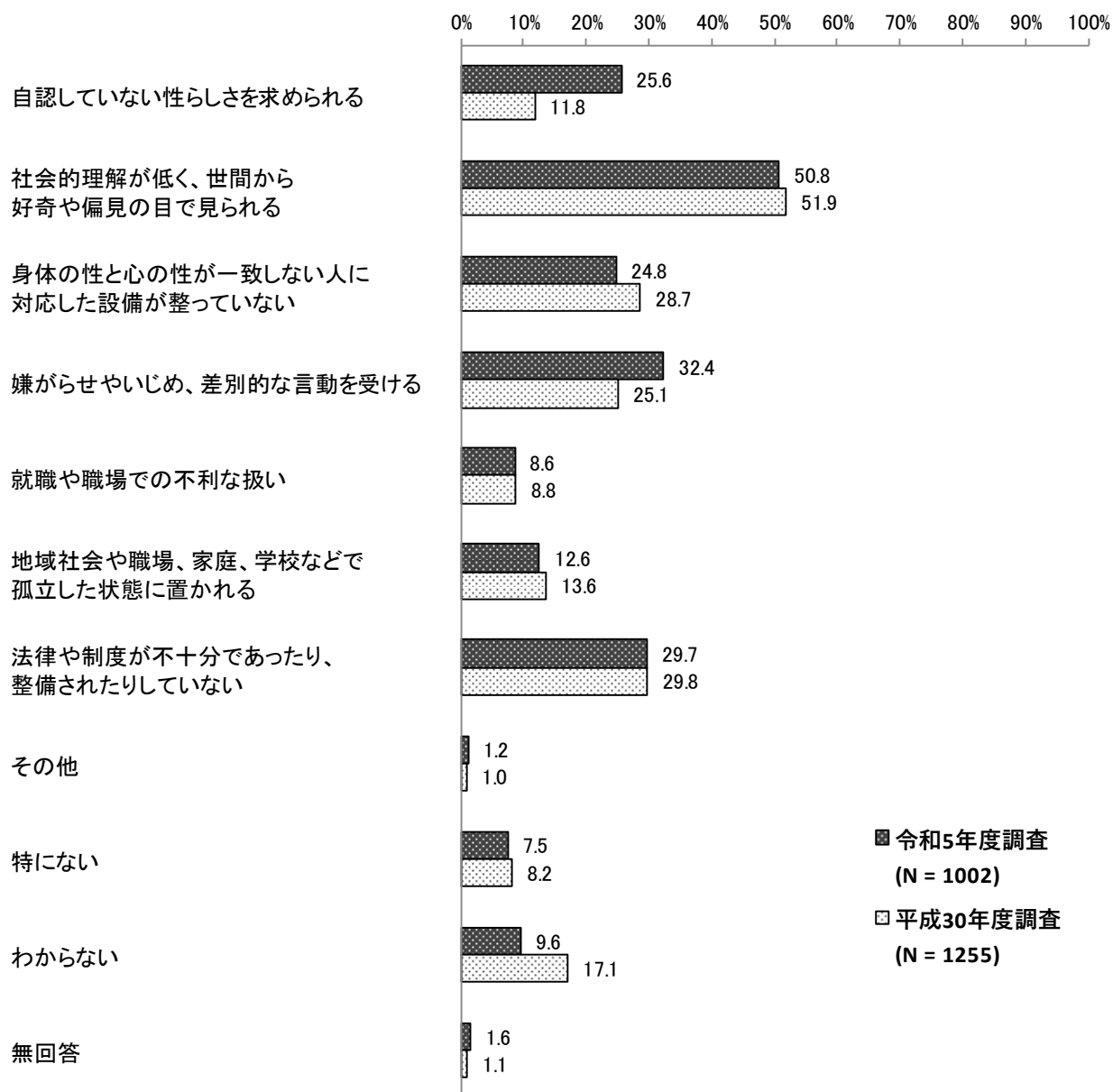
問 16 あなたは「L G B T」という言葉をご存知ですか。 （当てはまる番号に1つだけ、○をつけてください。）	
L→レズビアン	: 自認する性が女性で、好きになる対象が女性の人
G→ゲイ	: 自認する性が男性で、好きになる対象が男性の人
B→バイセクシュアル	: 好きになる対象が女性・男性両方の人
T→トランスジェンダー	: 出生時に割り当てられた性別（戸籍の性）と自認する性などが一致しない人
「L G B T」は、これらの頭文字をとったもの	



L G B Tについて、「だいたい知っている」が55.4%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が25.0%、「詳しく知っている」が9.6%となっています。

「詳しく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は65.0%となりました。「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた『知らない』は9.3%となり、『知っている』が『知らない』を55.7ポイント上回りました。

問 17 性的少数者（問 16 参照）に関することで、次の事例のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
（当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内）

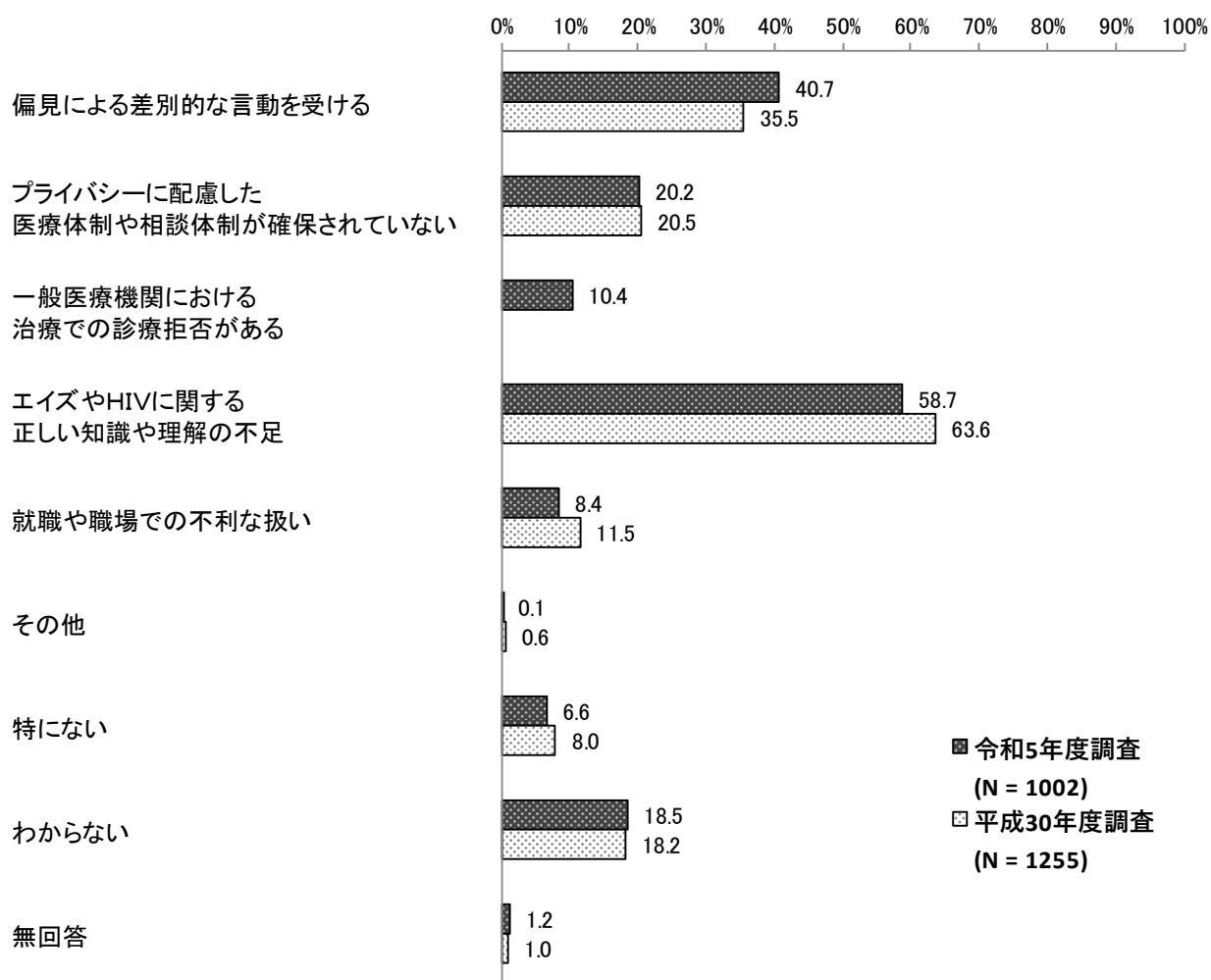


性的少数者について特に問題だと思うことは、「社会的理解が低く、世間から好奇や偏見の目で見られる」が50.8%と最も高く、次いで「嫌がらせやいじめ、差別的な言動を受ける」が32.4%、「法律や制度が不十分であったり、整備されたりしていない」が29.7%となっています。

過去の調査と比較すると、「自認していない性らしさを求められる」（25.6%）は平成30年度調査（11.8%）から13.8ポイント、「嫌がらせやいじめ、差別的な言動を受ける」（32.4%）は平成30年度調査（25.1%）から7.3ポイント高くなっています。一方、「わからない」（9.6%）は平成30年度調査（17.1%）から7.5ポイント低くなっています。

(9) その他の人権について

問 18 エイズ患者・HIV感染者の人権のうち、あなたが問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



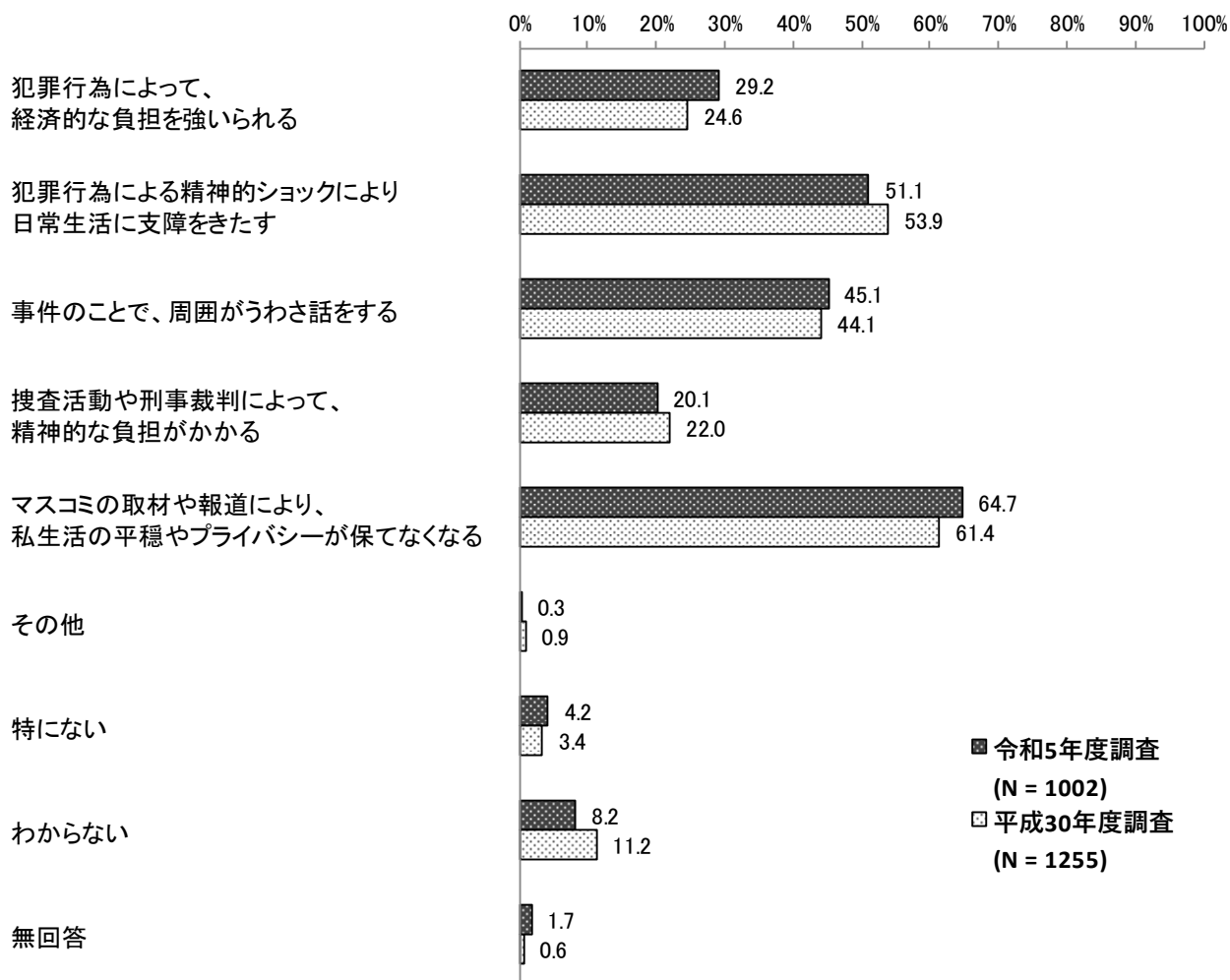
エイズ患者・HIV感染者の人権について問題だと思うことは、「エイズやHIVに関する正しい知識や理解の不足」が58.7%と最も高く、次いで「偏見による差別的な言動を受ける」が40.7%、「プライバシーに配慮した医療体制や相談体制が確保されていない」が20.2%となっています。

過去の調査と比較すると、「偏見による差別的な言動を受ける」(40.7%)は平成30年度調査(35.5%)から5.2ポイント高くなりました。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「一般医療機関における治療での診療拒否がある」は令和5年度調査のみの選択肢です。

問 19 犯罪被害者等（犯罪被害者とその家族、遺族）の人権のうち、あなたが問題だと思われる事例は何か。

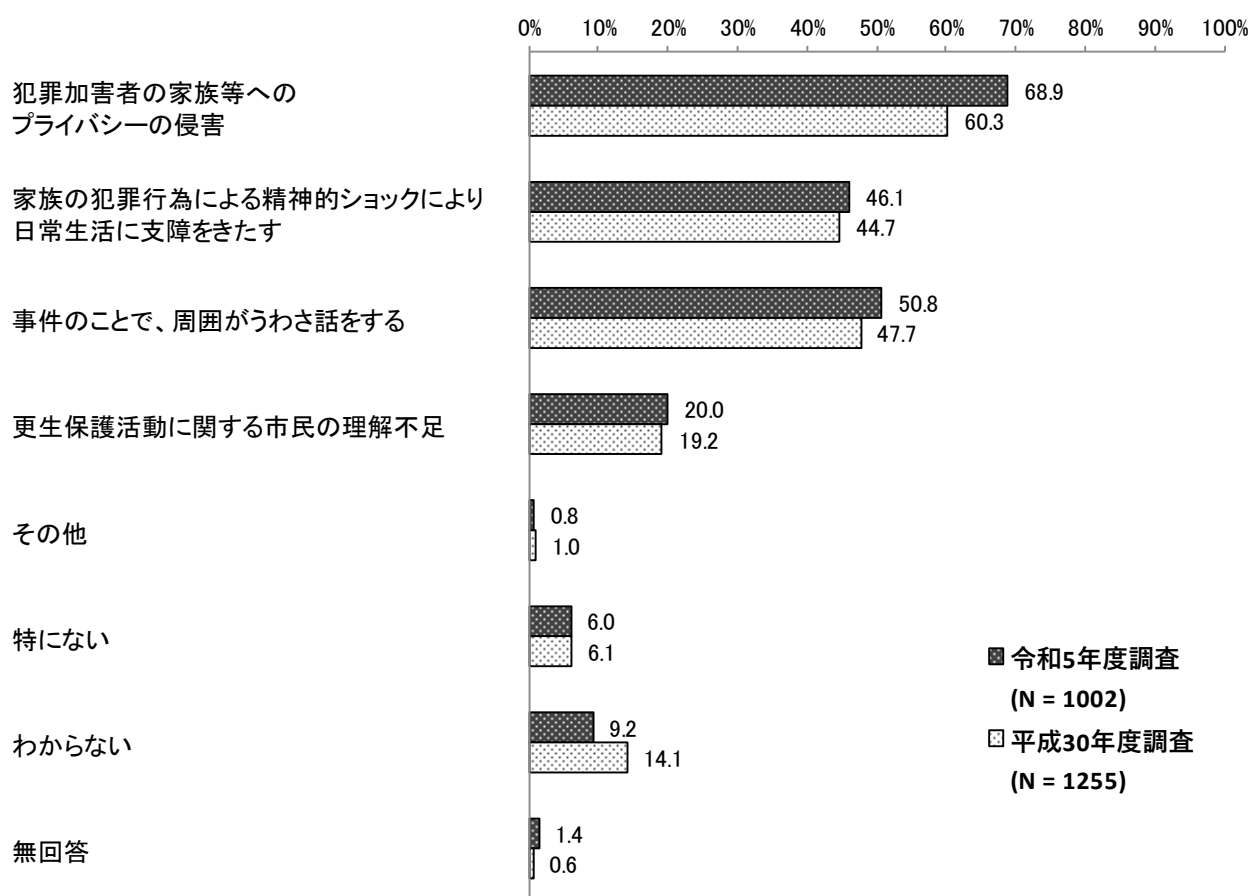
（当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内）



犯罪被害者等の人権で問題だと思うことは、「マスコミの取材や報道により、私生活の平穏やプライバシーが保てなくなる」が64.7%と最も高く、次いで「犯罪行為による精神的ショックにより日常生活に支障をきたす」が51.1%、「事件のことで、周囲がうわさ話をする」が45.1%となっています。

過去の調査と比較すると、「犯罪行為によって、経済的な負担を強いられる」（29.2%）は、平成30年度調査（24.6%）より4.6ポイント高くなりました。

問 20 犯罪加害者の家族等（家族、遺族）の人権のうち、あなたが問題だと思われる事例は何ですか。
（当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内）

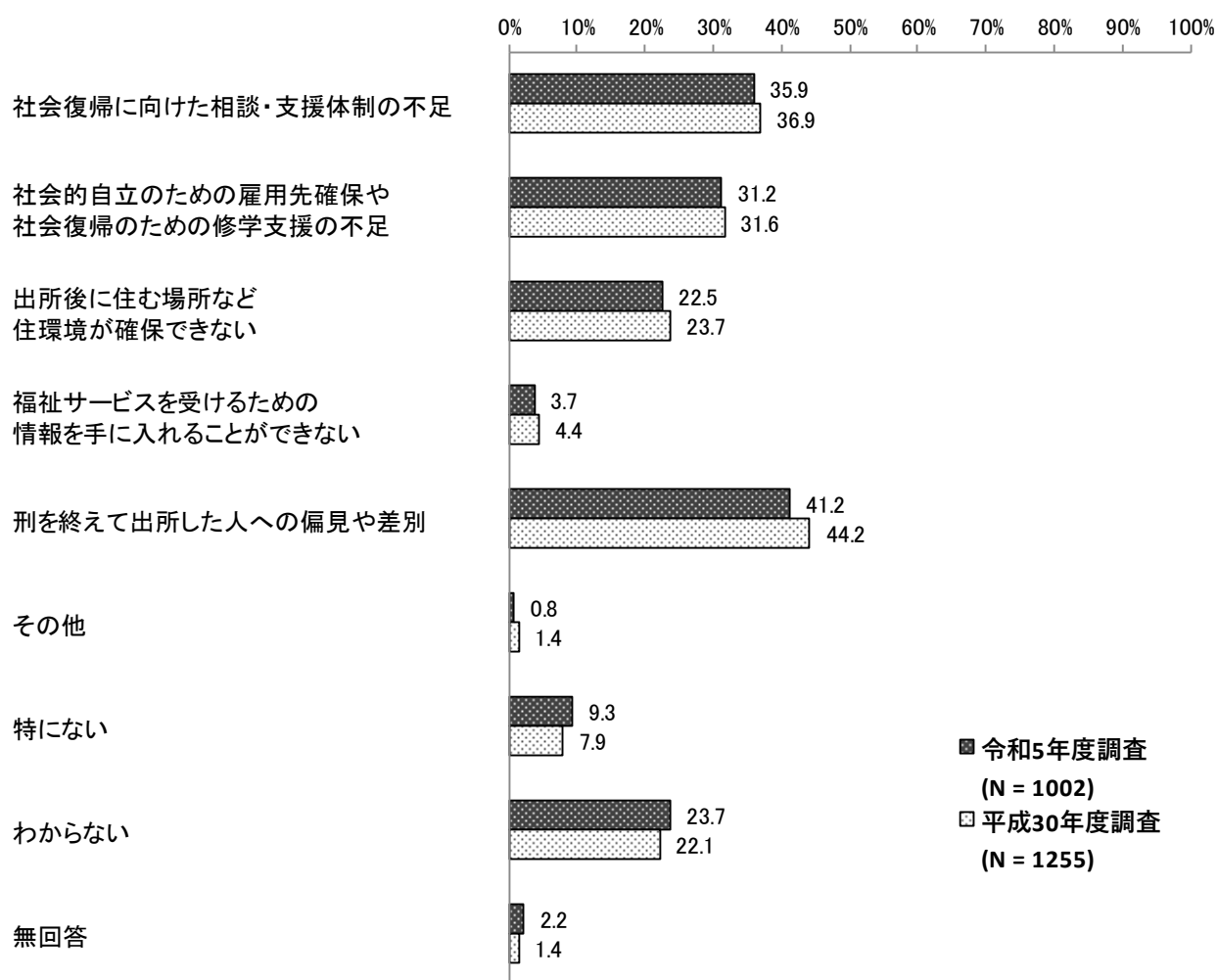


犯罪加害者家族等の人権で問題だと思うことは、「犯罪加害者の家族等へのプライバシーの侵害」が68.9%と最も高く、次いで「事件のことで、周囲がうわさ話をする」が50.8%、「家族の犯罪行為による精神的ショックにより日常生活に支障をきたす」が46.1%となっています。

過去の調査と比較すると、「犯罪加害者の家族等へのプライバシーの侵害」（68.9%）は、平成30年度調査（60.3%）より8.6ポイント高くなりました。

問 21 刑を終えて出所した人の人権のうち、あなたが問題だと思われる事例は何ですか。

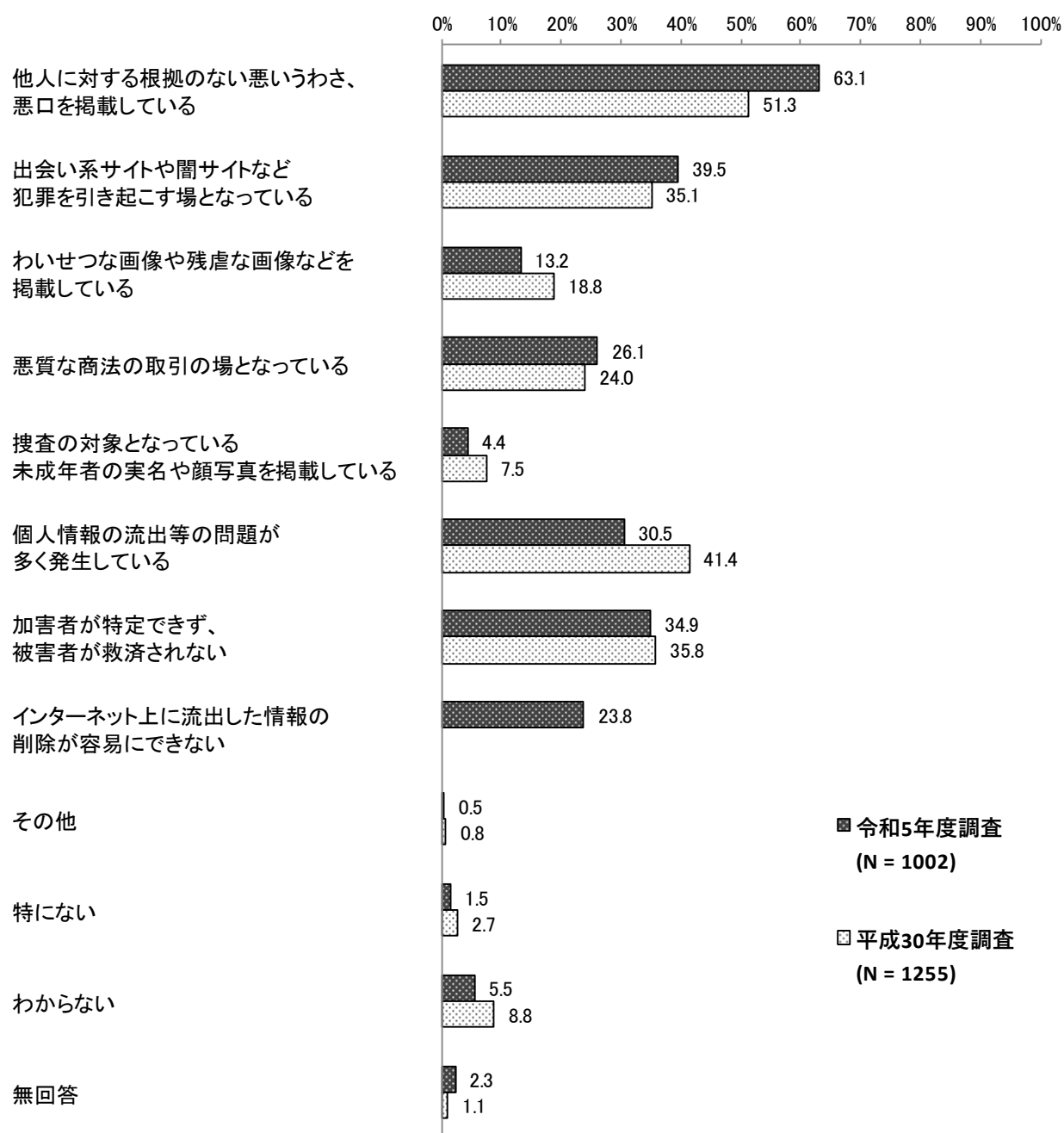
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



刑を終えて出所した人の人権で問題だと思うことは、「刑を終えて出所した人への偏見や差別」が41.2%と最も高く、次いで「社会復帰に向けた相談・支援体制の不足」が35.9%、「社会的自立のための雇用先確保や社会復帰のための修学支援の不足」が31.2%となっています。

過去の調査と比較すると、大きな差はみられませんでした。

問 22 インターネットによる人権問題のうち、あなたが特に問題だと思われる事例は何ですか。
(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



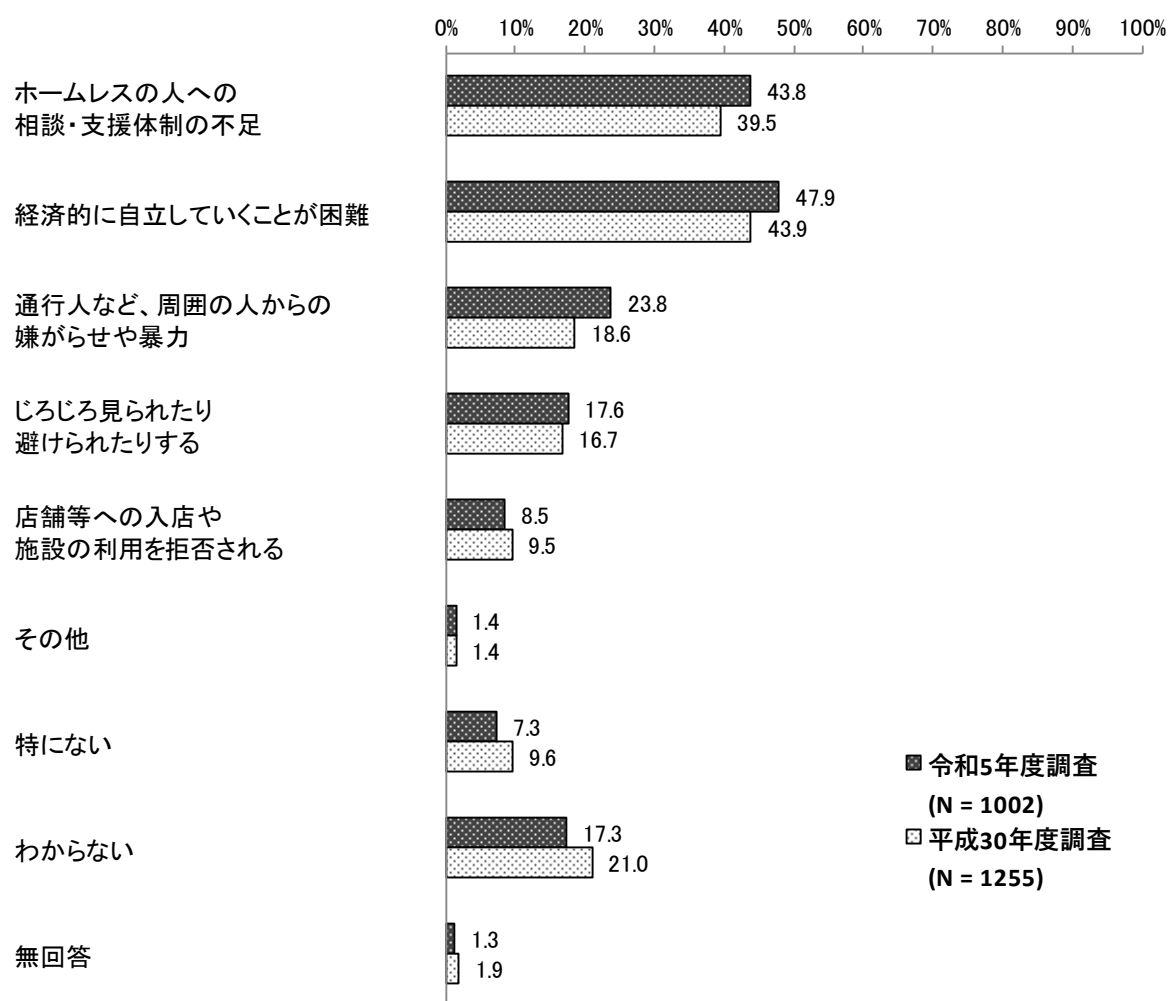
インターネットによる人権侵害のうち問題だと思うことは、「他人に対する根拠のない悪いうわさ、悪口を掲載している」が63.1%と最も高く、次いで「出会い系サイトや闇サイトなど犯罪を引き起こす場となっている」が39.5%、「加害者が特定できず、被害者が救済されない」が34.9%となっています。

過去の調査と比較すると、「他人に対する根拠のない悪いうわさ、悪口を掲載している」（63.1%）は、平成30年度調査（51.3%）より11.8ポイント高く、「個人情報の流出等の問題が多く発生している」（30.5%）は、平成30年度調査（41.4%）より10.9ポイント低くなりました。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。また、「インターネット上に流出した情報の削除が容易にできない」は令和5年度調査のみの選択肢です。

問 23 ホームレスの人の人権のうち、あなたが問題だと思われる事例は何ですか。

(当てはまる番号に○をつけてください。3つ以内)



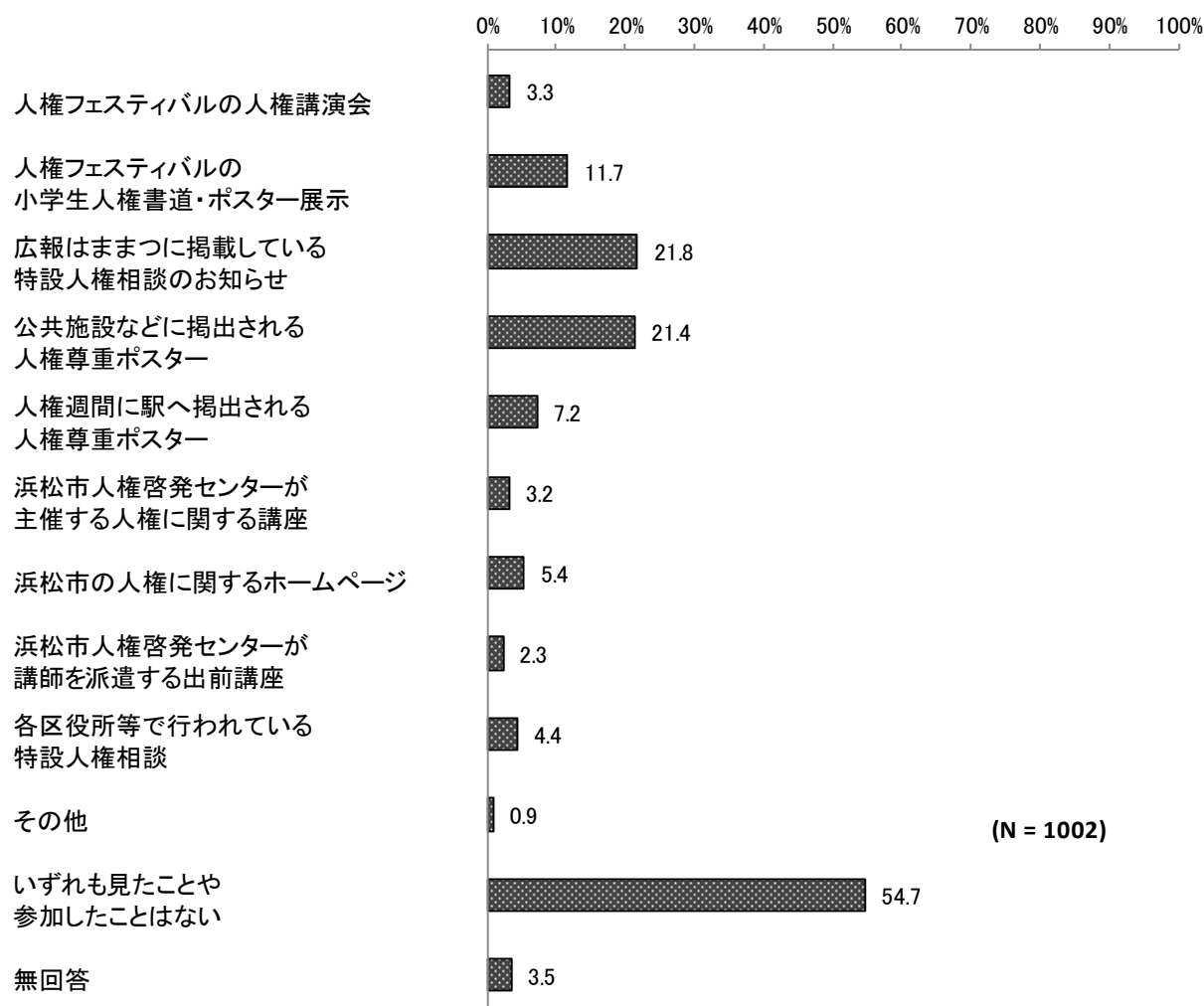
ホームレスの人の人権で問題だと思うことは、「経済的に自立していくことが困難」が47.9%と最も高く、次いで「ホームレスの人への相談・支援体制の不足」が43.8%、「通行人など、周囲の人からの嫌がらせや暴力」が23.8%となっています。

過去の調査と比較すると、「通行人など、周囲の人からの嫌がらせや暴力」（23.8%）は、平成30年度調査（18.6%）より5.2ポイント高くなりました。

(10) 浜松市の進める人権施策について

問 24 人権についての理解を深めていただくことを目的に、浜松市ではさまざまな取り組みを進めています。あなたが見たことや、参加したことがあるものを教えてください。

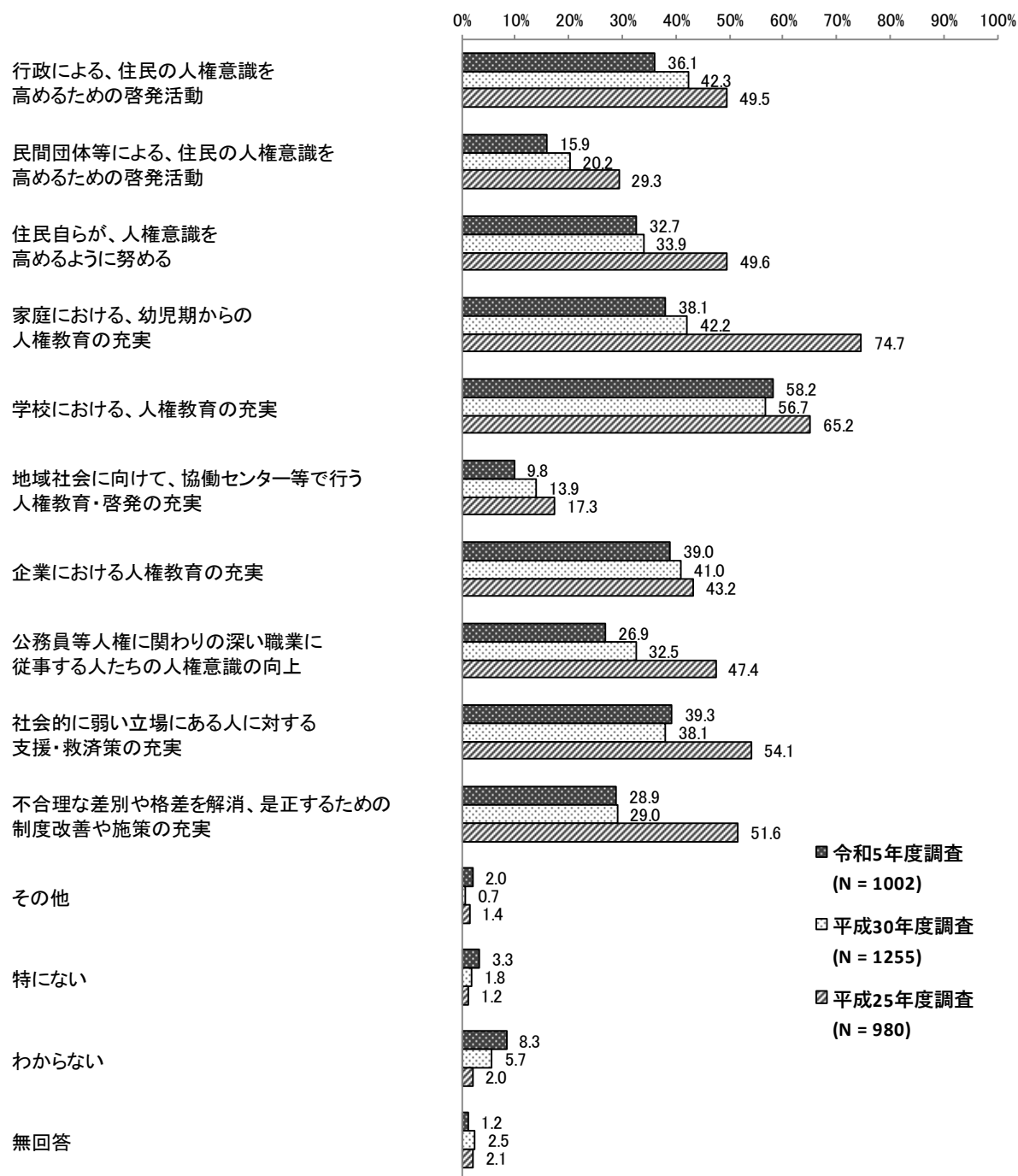
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)



浜松市の進める人権施策について、「いずれも見たことや参加したことはない」が54.7%と最も高く、次いで「広報はままつに掲載している特設人権相談のお知らせ」が21.8%、「公共施設などに掲出される人権尊重ポスター」が21.4%となっています。

(11) 人権に関する取り組みについて

問 25 人権が尊重される社会を実現するために、あなたが必要だと思われる取り組みは何ですか。
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)

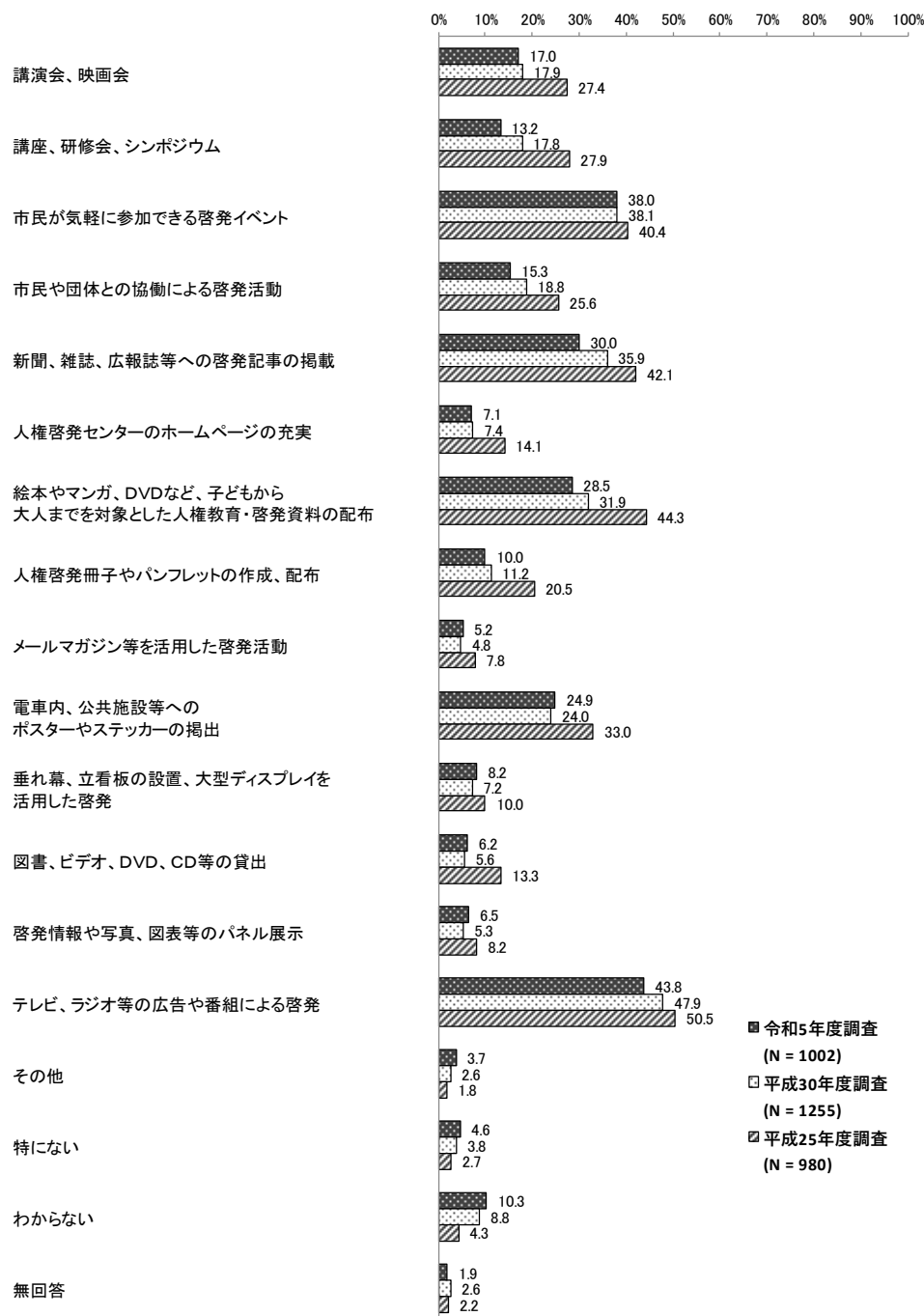


人権に関する取り組みについては、「学校における、人権教育の充実」が58.2%と最も高く、次いで「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策の充実」が39.3%、「企業における人権教育の充実」が39.0%となっています。

過去の調査と比較すると、「行政による、住民の人権意識を高めるための啓発活動」（36.1%）は平成30年度調査（42.3%）より6.2ポイント低く、「学校における、人権教育の充実」（58.2%）は平成30年度調査（56.7%）より1.5ポイント高くなりました。

(12) 効果的な啓発活動について

問 26 人権尊重の理解を深めるために、あなたが特に効果的だと思われる啓発活動は何ですか。
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)



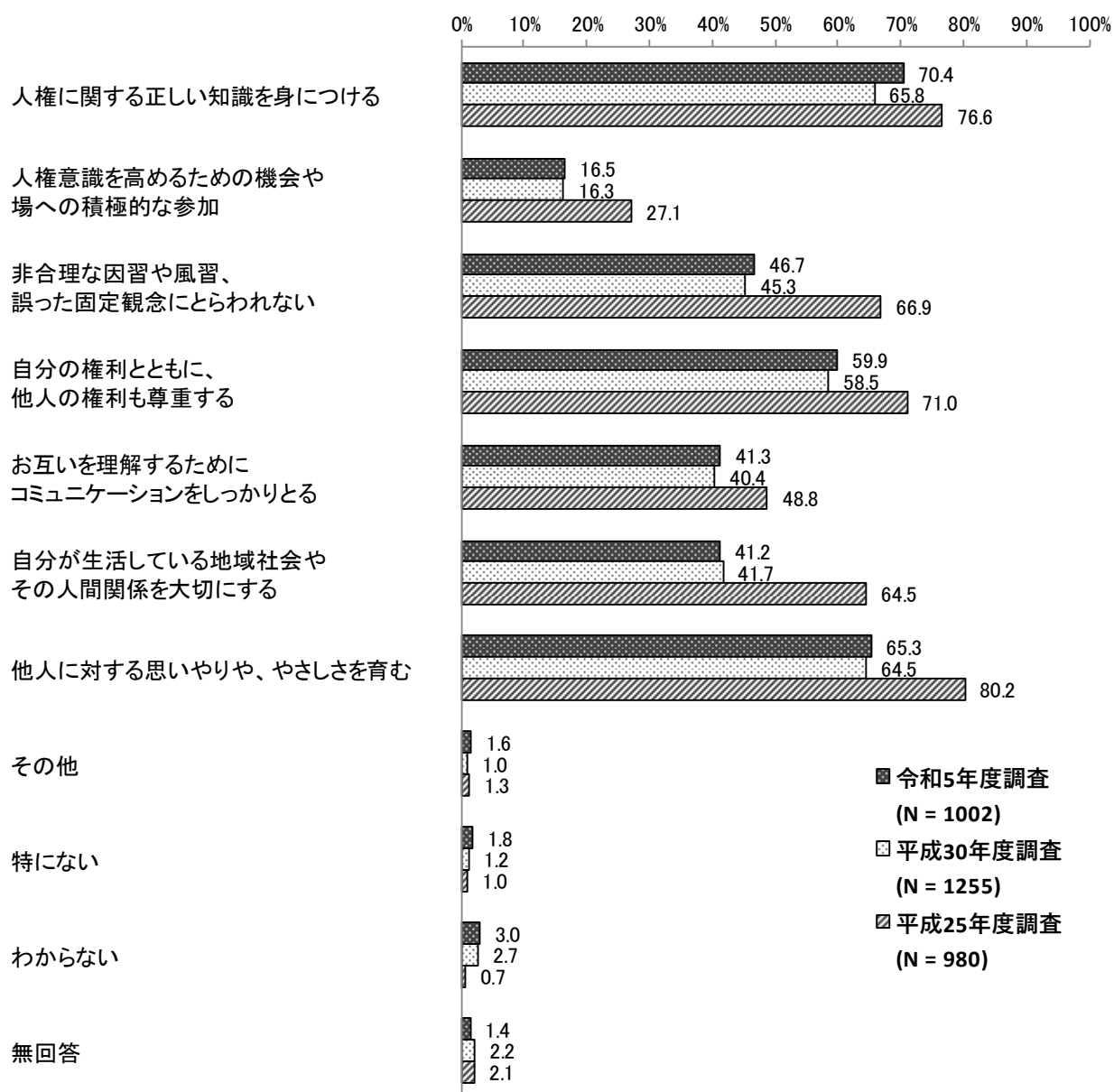
効果的な啓発活動については、「テレビ、ラジオ等の広告や番組による啓発」が43.8%と最も高く、次いで「市民が気軽に参加できる啓発イベント」が38.0%、「新聞、雑誌、広報誌等への啓発記事の掲載」が30.0%となっています。

過去の調査と比較すると、「新聞、雑誌、広報誌等への啓発記事の掲載」（30.0%）は平成30年度調査（35.9%）より5.9ポイント低く、年々低くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

(13) 市民一人ひとりが心がけることについて

問 27 お互いの人権が尊重されるために、市民一人ひとりがすべきことはどれだと思われますか。
(当てはまる番号すべてに、○をつけてください。)



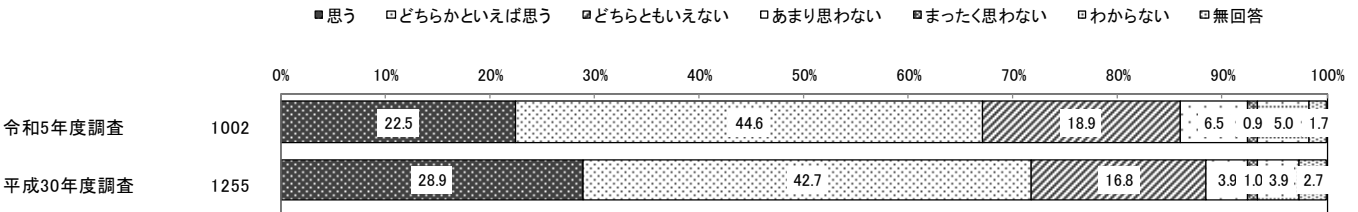
市民一人ひとりが心がけることについては、「人権に関する正しい知識を身につける」が70.4%と最も高く、次いで「他人に対する思いやりや、やさしさを育む」が65.3%、「自分の権利とともに、他人の権利も尊重する」が59.9%となっています。

過去の調査と比較すると、「人権に関する正しい知識を身につける」（70.4%）は平成30年度調査（65.8%）より4.6ポイント高くなっています。

※調査年度により各選択肢の文言が若干異なっています。

(14) 人権について

問 28 あなたは、さまざまな人権について知りたい、理解したいと思われませんか。
(当てはまる番号に1つだけ、○をつけてください。)

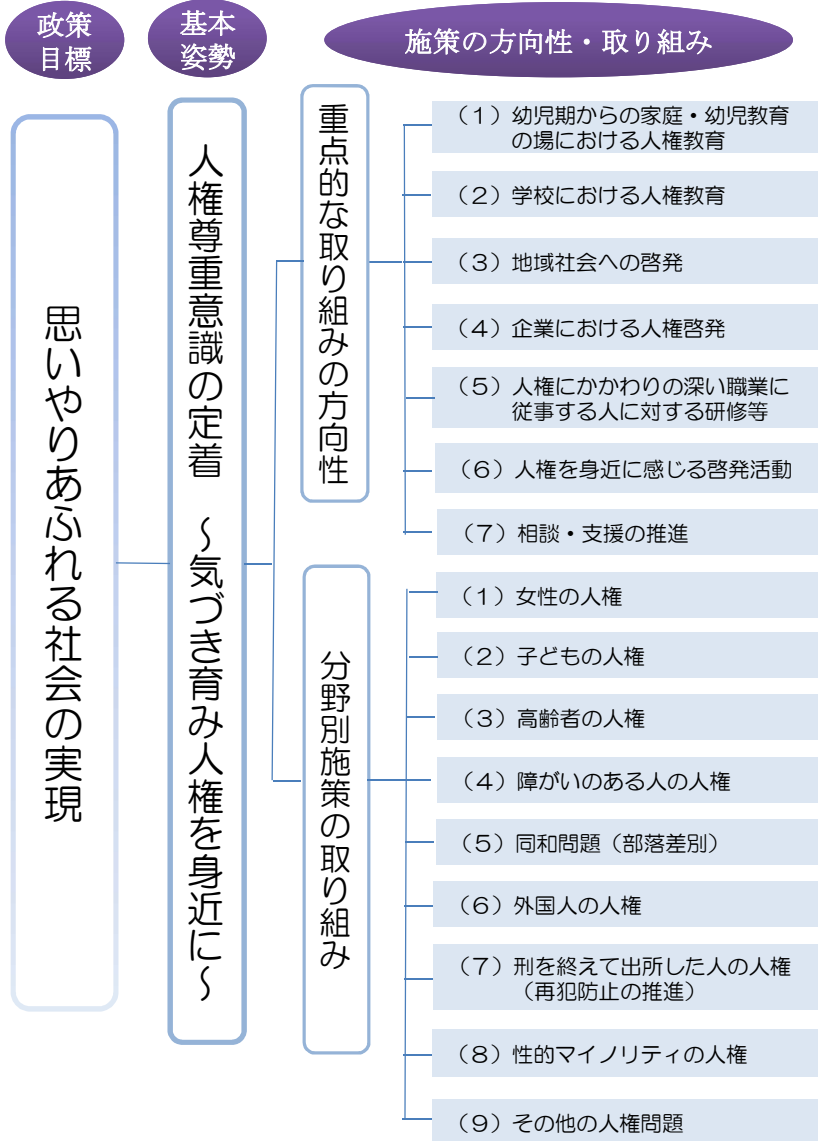


さまざまな人権について知りたい、理解したいかについて、「どちらかといえば思う」が44.6%と最も高く、次いで「思う」が22.5%、「どちらともいえない」が18.9%となっています。

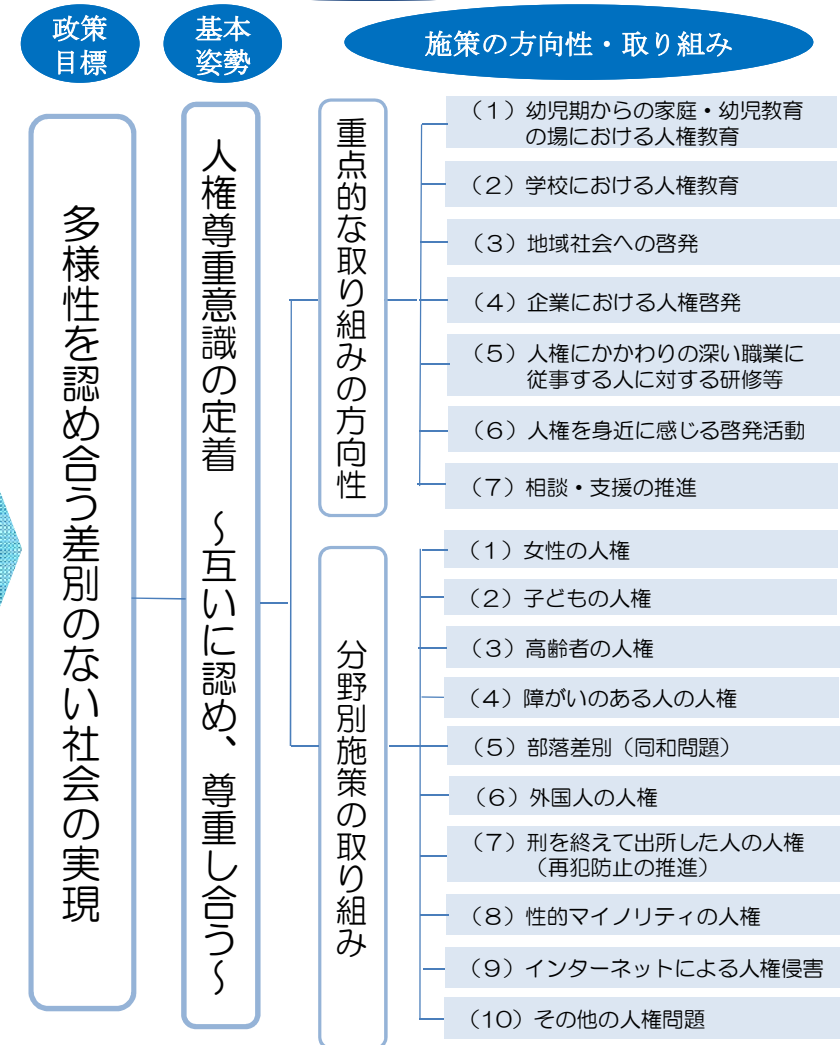
「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『思う』は67.1%となり、「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた『思わない』（7.4%）を59.7ポイント上回りました。

過去の調査と比較すると、『思う』（67.1%）は、平成30年度調査（71.6%）より4.5ポイント低くなっています。

第2次計画の骨子



第3次計画の骨子（案）



第3次計画の主な変更点

- 誰もが、自分らしく生き暮らしていくために一人一人の人権を尊重することが大切であることから、政策目標を「多様性を認め合う差別のない社会の実現」とした。
- 「同和問題（部落差別）」を「部落差別（同和問題）」に変更した。
- その他の人権問題に含まれていた「インターネットによる人権侵害」を分野別施策の取り組みの一つとした。